ISSN 0286-5424

京都府埋蔵文化財情報

第50号

平安京跡・旧二条城跡の発掘調査----------森島　康雄-----1

中海道遺跡の再検討(4)----------中川　和哉-----9

－平成5年度発掘調査略報－----------15

5. 溝谷古墳群　　9. 今林古墳

6. 堀坂神社古墳群　　10. 沢ノ谷遺跡

7. 嗎岡南古墳・嗎岡遺跡　　11. 平安京左京一条二坊十四町(南トレンチ)

8. 白米山北古墳　　12. 桜　遺　跡

資料紹介　銅剣形石剣の新事例----------中川　和哉----31

府内遺跡紹介　61. 勧修寺旧境内----------33

長岡京跡調査だより・47----------36

センターの動向----------39

府内報告書等刊行状況一覧----------41

受贈図書一覧----------47

1993年12月

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

平安京跡・旧二条城跡の発掘調査

森島康雄

1．はじめに

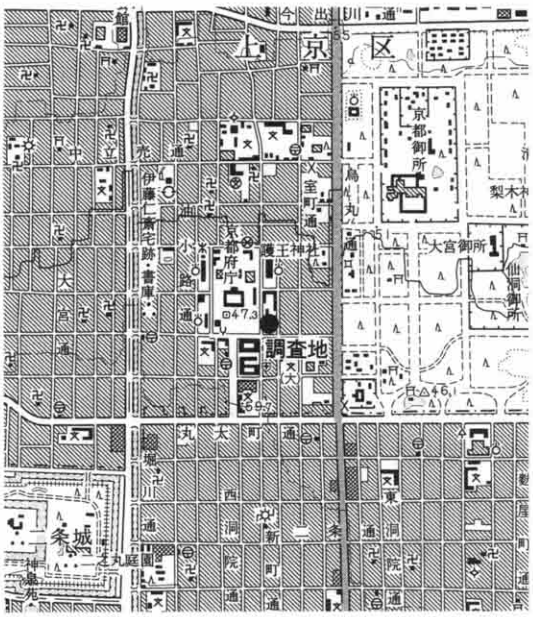
平安京跡・旧二条城跡の調査は、京都市上京区両御霊町他における京都府警察110番指令センター(仮称)新築工事に先立って、京都府警察本部の依頼を受けて行った。調査期間は平成4年度が平成4年6月22日～平成5年3月4日、平成5年度が平成5年4月7日～平成5年6月29日で、調査面積は約2,300㎡である。

調査地は、平安京左京一条三坊六町のうち南西約六分の一の範囲で、平安時代の修理職町の一角にあたり、室町時代には織田信長が永禄12年に足利義昭の居館として築いた旧二条城の北西部分にあたることが予想された。また、近辺からは金箔瓦の出土が多く報告されているので、聚楽第城下町の大名屋敷に関連する成果が期待された。この付近は江戸時代には町屋になったようである。

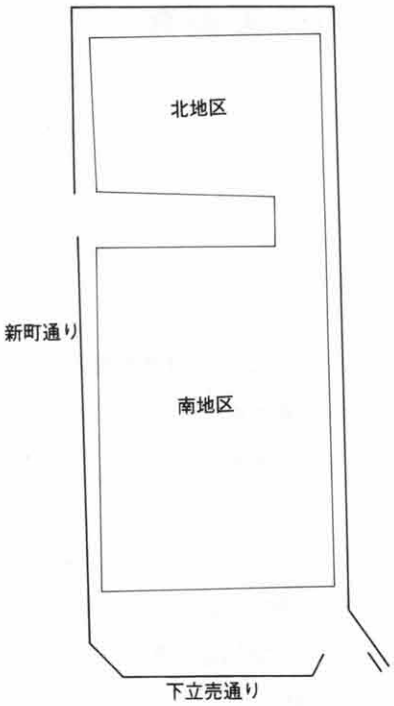
2．調査概要

今回の調査では、調査地を北地区と南地区に分けて調査を行い、それぞれ江戸時代初期と安土桃山時代の2つの遺構面の調査を行った。現在整理作業を継続中であるのでここでは第2遺構面(安土桃山時代)で検出した堀の概要と、遺物では、優先的に整理を行った漆器、木簡、金箔瓦について簡単に報告したい。

第2遺構面では、時期差のある2本の素掘りの堀を検出した。北地区で検出した堀Bは西南西から東北東に斜めに横切るもので、幅約5m、



第1図　調査地位置図(1/25,000)



第２図　調査区配置図(1/1,000)

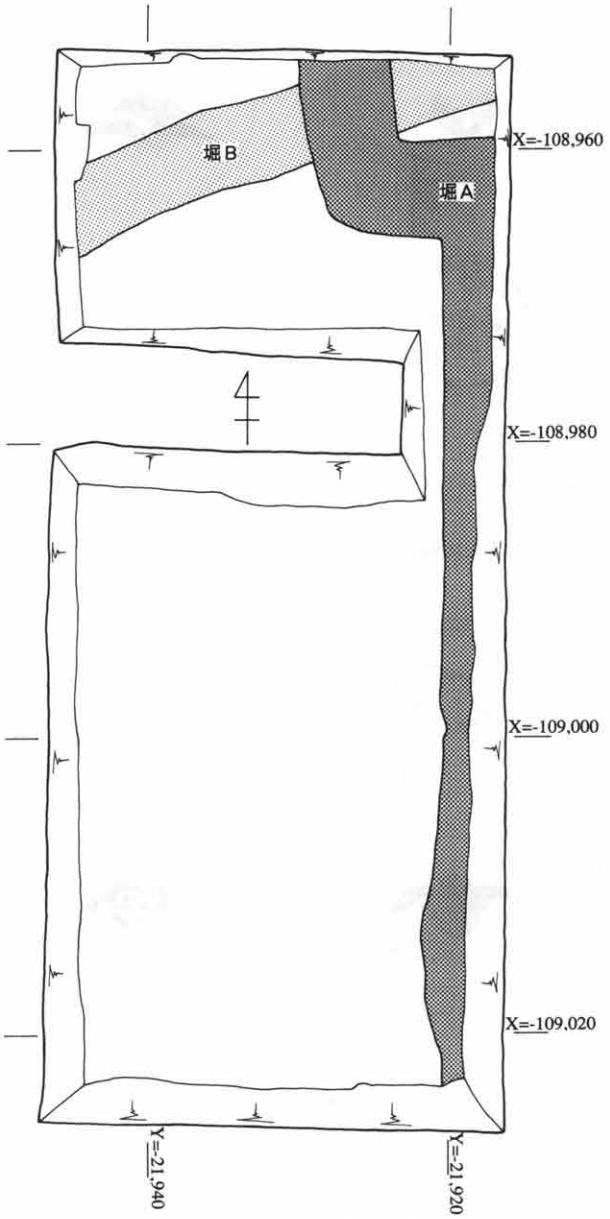
深さ約1.4mを測る。埋土の様子から、空堀で、南側に土塁を伴っていたことがわかり、町の構えの堀ではないかと思われる。堀Ｂの埋没時期は16世紀中葉～後半と考えられる。調査区東半部で検出した堀Ａは、堀Ｂが埋められた後に掘られている。途中でクランク状に屈曲し、幅約６～７ｍ、深さ約2.2mを測る。堀の最下層は厚さ20～50cmの自然堆積層で、その上層は人為的に埋められているが、堀が埋められた後も所々は沼状の湿地となっていたようで、黒い粘土の堆積が見られる。この人為的な埋め土の中から石仏や庭石などが出土した(注1)。これらはもともと寺院の墓地や庭などにあったものを、織田信長が足利義昭の居館(旧二条城)を築造する際に徴発してきたものと思われる。このことは『イエズス会士日本通信(注2)』の「永禄12年６月１日付フロイス書翰」に「これに用ふる石なきを以て多数の石像を倒し、頸に縄を付けて工事場に引かしめ(中略)石の祭壇及びフォトケス即ち偶像を地上に倒してこれを破壊して車に積みて運搬し」と書かれており、石仏の中には実際に頸や胴体の部分で打ち割られたものがある。このような石仏は地下鉄烏丸線の建設に伴う発掘調査で旧二条城関連と見られる東西の堀が発見されたときにも石垣などに使われていたものが300体以上見つかっている。また、庭石は、細川氏の屋敷にあった藤戸石という石や、慈照寺(銀閣)の九山八海という石を運んだという記録があり、これも石仏と同じように寺院などから徴発してきたものと思われる。今回見つかった堀Ａも旧二条城に関連する堀の可能性があるが、これまで見つかっている旧二条城の堀が石垣を持っているのに対して、堀Ａが素掘りであること、出土遺物からみて堀Ａが埋められたのが天正末年頃まで下がることを考えると、聚楽第城下町の大名屋敷に関連する堀の可能性が高いと考えられる。石仏は、旧二条城廃城後、付近に打ち捨てられていたものと思われる。

また、堀Ａの黒色粘土層などからは漆器、木簡などの木製品や金箔瓦などが多量に出土した。

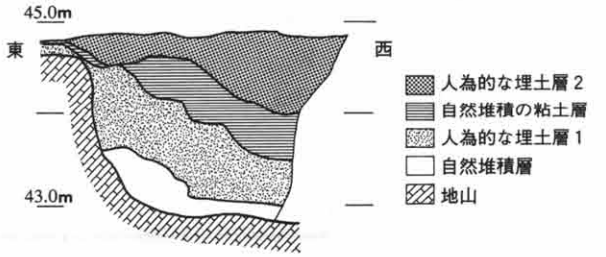
3．出土遺物

1）漆器他

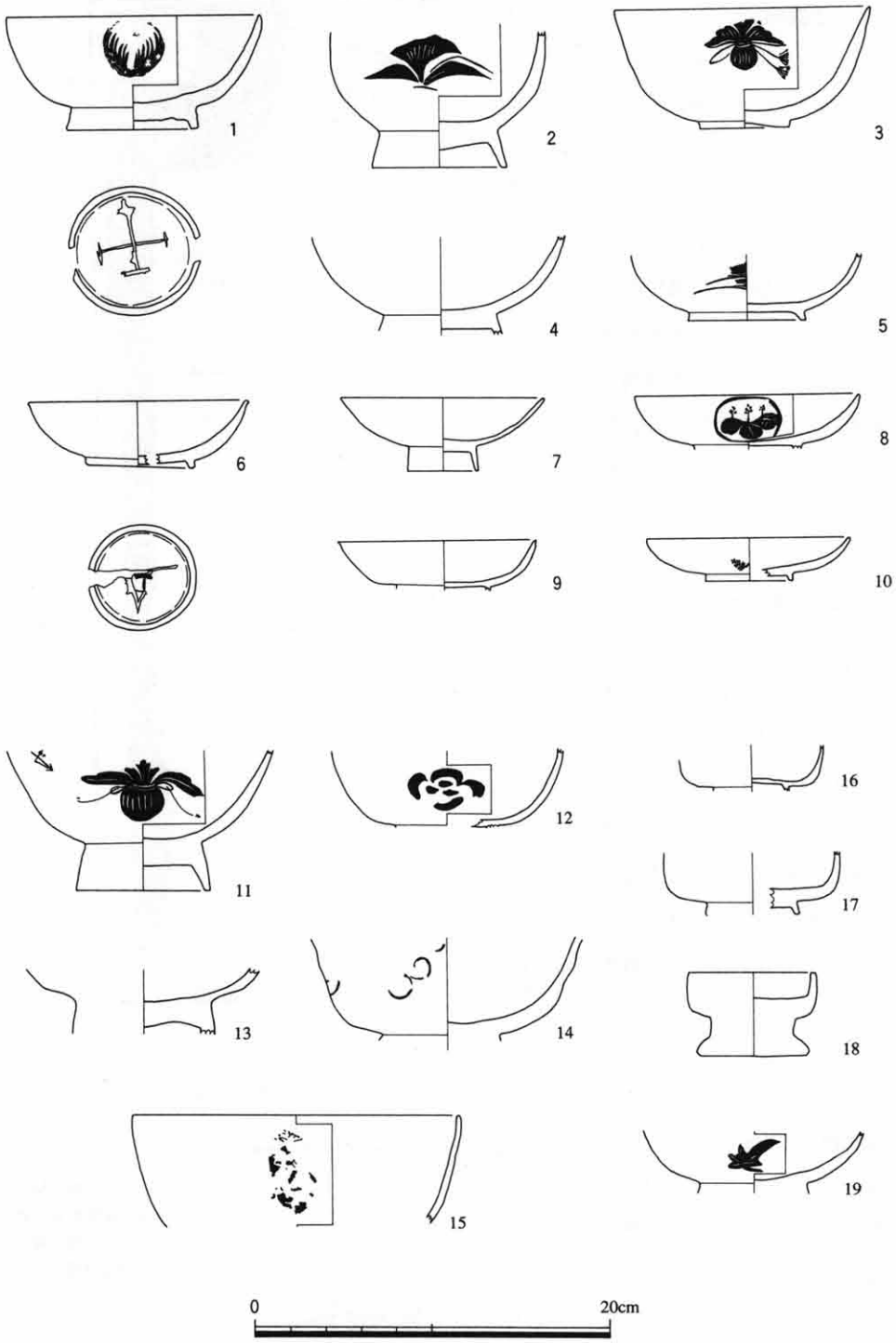
ここに図示した漆器はすべて堀Ａが人為的に埋められた後、湿地状になっていたところに堆積したと考えられる黒色粘土層から出土したものである。したがって、埋没の時期は16世紀末から17世紀初頭に限定される。１～５は椀である。１は、内外面ともに黒漆を塗り、２か所に鳥が羽を翻したような文様が朱漆で描かれている。高台内には、十字架状の線刻が施されている。これはポテント十字といわれる十字架を意識して刻まれたものと見られる。同じ文様は長崎市二十六聖人記念館所蔵の大傘に描かれた盾をはじめ、同時代のキリスト教関係の資料に多く描かれているもので、これもキリスト教の影響を示す遺物と考えられる。しかし、これが、所有者の信仰を表したものかどうかは断定できない。２・３・５は内面に朱漆、外面に黒漆が塗られ、外面に朱漆で文様が描かれている。４は内外面とも朱漆である。６～10は皿である。６・７・９は内外面共



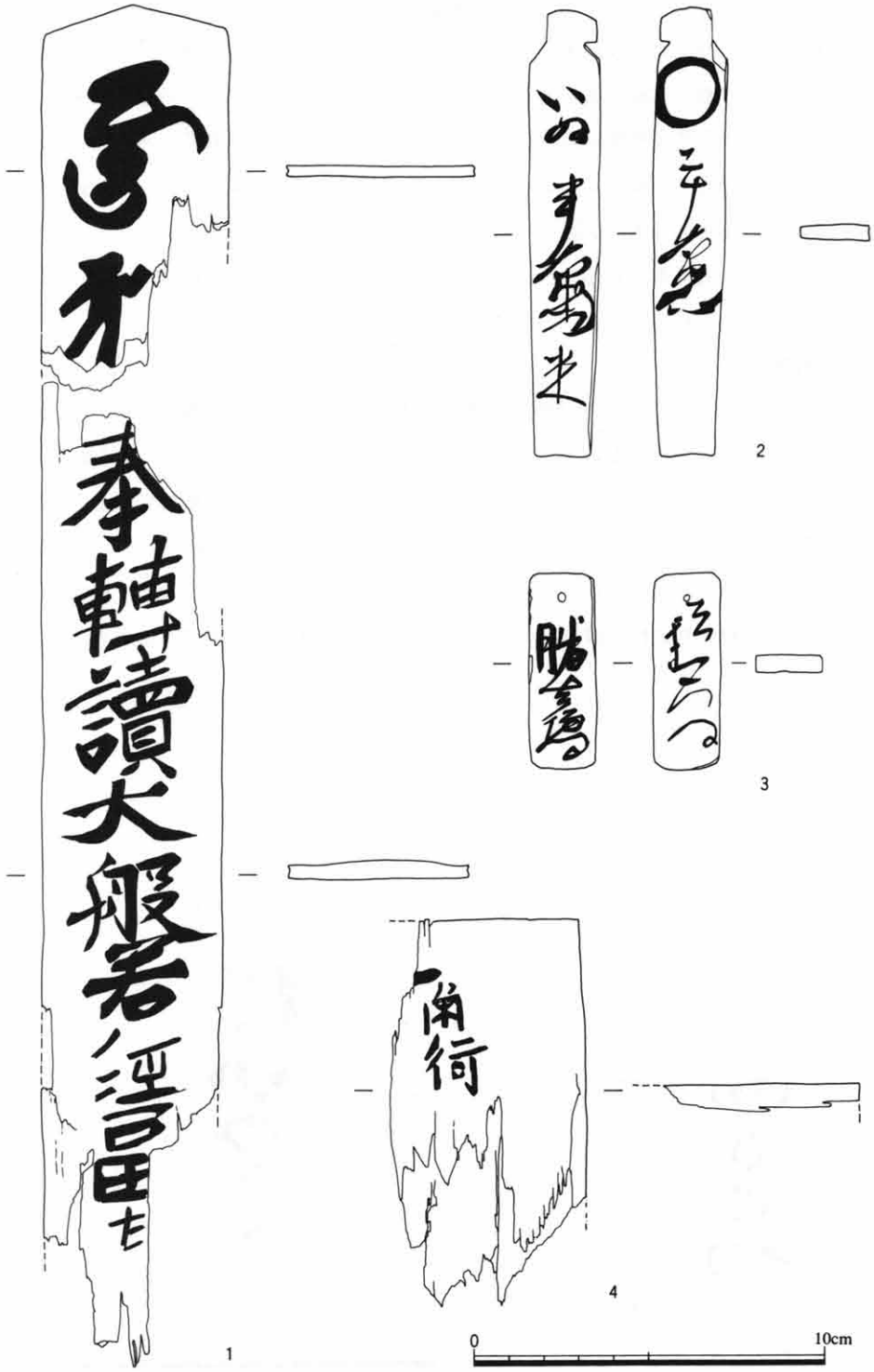
第３図　堀平面図(1/500)



第４図　堀Ａ断面図(X=-108,988mライＮ)



第５図　漆器椀他実測図(1/4)

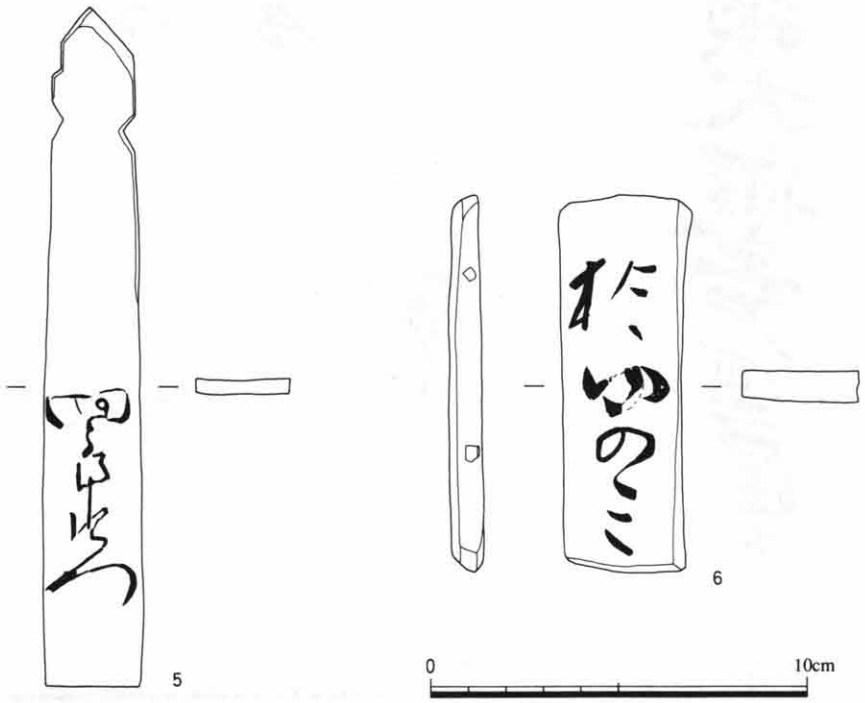


第６図　木簡実測図１（1/2）

に朱漆が塗られており、６の高台内には黒漆で「T」字状の文様が描かれている。８・10は内面に朱漆、外面に黒漆が塗られているが、10の高台内は朱漆が塗られている。８には３か所に朱漆で桐の文様が描かれている。11～15は椀である。11は内外面とも朱漆、12・14・15は内面に朱漆、外面に黒漆、13は内外面ともに黒漆が塗られている。11には３か所に袋の文様が黒漆で描かれている。12には木瓜文が黒漆で描かれている。16・17は筒形の椀である。16の外面は朱漆が塗られているが、内面は漆が剝離している。17は、内外面とも茶褐色の漆が塗られている。18は、木地の仏飯器である。19は皿である。内面に朱漆、外面に黒漆が塗られている。

２）木簡

１は下半が欠損しており「(梵字) 奉転読大般若経富貴・・」と書かれている。富貴を祈願した転読札である。２は表に「いぬ　半右衛門尉米」、裏面に「○　半右衛門尉」と書かれている。戌の年に半右衛門尉が貢納した米に付けられていた荷札である。表に「勝左衛門尉」、裏に「□左衛門尉」と書かれている。上部には穴が開けられている。同形のものが他に２点出土しており、綴じて使われていたものと思われる。４は、将棋の「角行」に似た字が板材に無造作に書かれたもので、その用途や意味は不明である。５は、２と同



第７図　木簡実測図２(1/2)

第８図　金箔瓦拓影(1/4)

じような形状をしたもので、下部に「四郎衛門」と書かれている。6は側面に2つの木釘穴が開けられており、桶の底板ではないかと思われる。最初の2文字が判読しにくいが、「於ゆのミ」とでも書かれているのであろうか。これらの木簡も漆器椀と同じく16世紀末から17世紀初頭と判断される土坑や土層から出土している。

3)金箔瓦

1～18は北地区第一遺構面の土坑から出土したものである。この土坑には拳大の円礫と瓦が充填されていた。1～9は左巻きの巴文軒丸瓦である。外縁部と巴文に金箔が貼られている。1の珠文の一部に金箔の付着が認められるが、他の部位の金箔の残存状況からみて、もともと珠文に金箔を貼る意図はなかったものと判断される。2～6についても珠文の金箔は省略されている。丸瓦部の残存している6で見るとコビキ痕跡はBである。7～9は珠文帯を持たない。10は五三桐文の軒丸瓦である。桐文は写実性を失っている。金箔の付着が認められず、あるいは金箔瓦でないかもしれない。11～19は唐草文軒平瓦である。11～17は外縁部の左右の上隅を除く凸部に金箔が貼られている。18は文様と文様区部分に対応する部分の上下の外縁部に金箔が貼られている。これらは聚楽第城下町の大名屋敷に葺かれていたものと考えられる。中でも、花文を中心飾りとし、顎の幅広な11～14は主要建物に使用されていたものと思われる。19は他の遺構から出土した五七桐文の軒丸瓦である。瓦当中央部に小さな円形の窪みがあるが貫通はしていない。

4．まとめ

ここで報告した堀は中世末～近世初頭にかけて京都の町が大きく変化していったことを窺わせる遺構である。また、第一遺構面(江戸時代初期)では、町境の溝や町屋の都市景観を復原することのできる遺構なども検出されている。一方、桃山時代以前の遺構は井戸を除いて全く残っておらず、この時代の土地の改変が大きかったことを示しているものと考えられる。遺物では、土坑や黒色粘土層を中心に、ここで報告したような木質遺物等が良好な状態で出土している。このように、今回の調査では桃山時代から江戸時代初期というかなり限定された時代の遺構・遺物が多く検出された。今後の整理作業によって、調査地の歴史の復原に努めたい。

(もりしま・やすお＝当センター調査第2課調査第3係調査員)

注1　石仏については、森島康雄「平安京跡・旧二条城跡出土の石仏」(『史迹と美術』第637号　史迹美術同攷会　1993)に紹介した。

注2　村上直次郎訳『イエズス会士日本通信』　新異国叢書　雄松堂出版　1968

中海道遺跡の再検討(4)

中川和哉

小結

a．物集女街道の変遷について

中海道遺跡のある乙訓地域は、古くから交通の要衝となっており、古代の官道をはじめとして多くの古道が貫いていた。奈良時代以前には、奈良から延びる山陰道が横切り、平安時代には平安京から延びる山陽道(注1)、久我畷(注2)が道として機能していた。また、中海道遺跡17次調査地に近接する、物集女(もずめ)街道(注3)は長岡京期には、都の北辺から北に通じる古道として利用されていたものと想定されている。

調査区内では、現在の物集女街道に平行する溝と柵列が検出されている。溝の年代は、出土遺物から中世以後に埋没したものであることがわかる。この溝が物集女街道の側溝になるかは、対になる溝が検出されていないことから断言は出来ないが、溝の規模と方向から現存する物集女街道との間には何らかの関連があるものと考えられる。調査区内で検出した奈良・平安時代の掘立柱建物、溝は物集女街道に近接するにもかかわらず遺構の軸が北で西に8°の振り角を持ち、道の振り角とは異なり溝を北に延長すると道と交差する。京都府大山崎町の百々(どど)遺跡(注4)では、古代の山陽道が検出されており、道の側溝はもとより道の外側には方位が道に平行する建物群が検出されている。この道と建物の関係例が普遍化されるなら、奈良・平安時代の物集女街道は、現在とは違ったルートを取っていた可能性が認められる。道の多くが目的地間を結ぶ場合、地形的な障害などの制約のない限り最短距離を取るのがもっとも合理的である。第2図に見られるように、物集女街道は、調査区北でクランク状に屈曲する。このような屈曲がなぜ生じたかについて若干の考察をしたい。

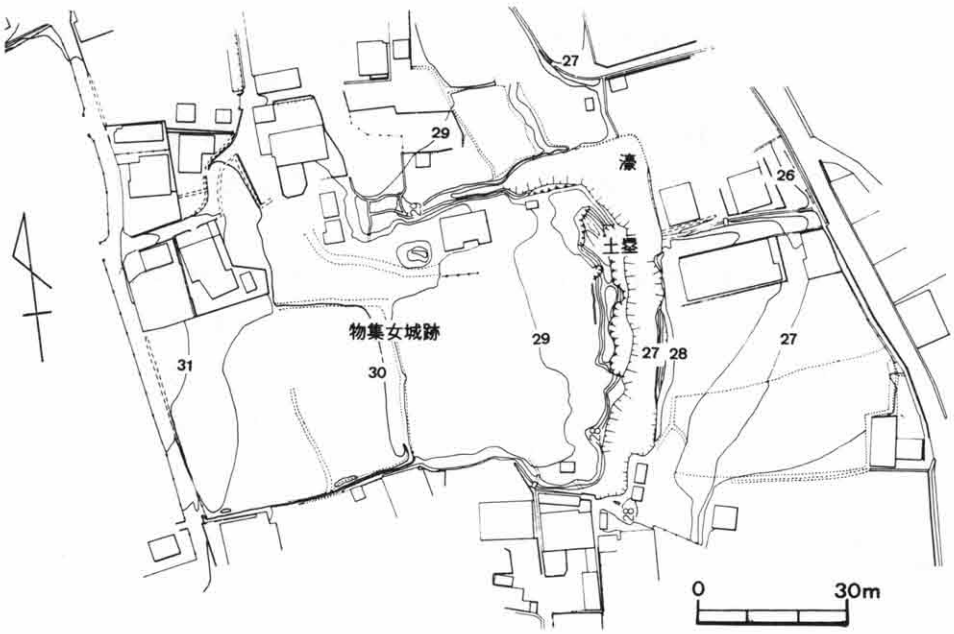
現在の物集女街道が中世以降に完成したものであるならば、中世に土地利用の画期を見いだすべきである。中世の中海道遺跡におこった最も大きな出来事と考えられるものには、物集女城の造営があげられる。物集女城(注5)は、西山の土豪物集女(小笠原)氏の居城である。中世物集女氏がはじめて文献に現われるのは、長享元(1498)年であるが、平安時代以来の有力な荘園である物集女荘を背景にして現われたと考えられる物集女氏の出現年代はさらに遡るであろう。現在は第1図に示したように土塁と堀の一部が現存しており、現地形か

ら東西約100m、南北約75mを測る方形のプランを持っていたことがうかがえる。このような濠と土塁によって区画された方形プラン(注6)を持つ城は、乙訓地域では多く目にすることができる。

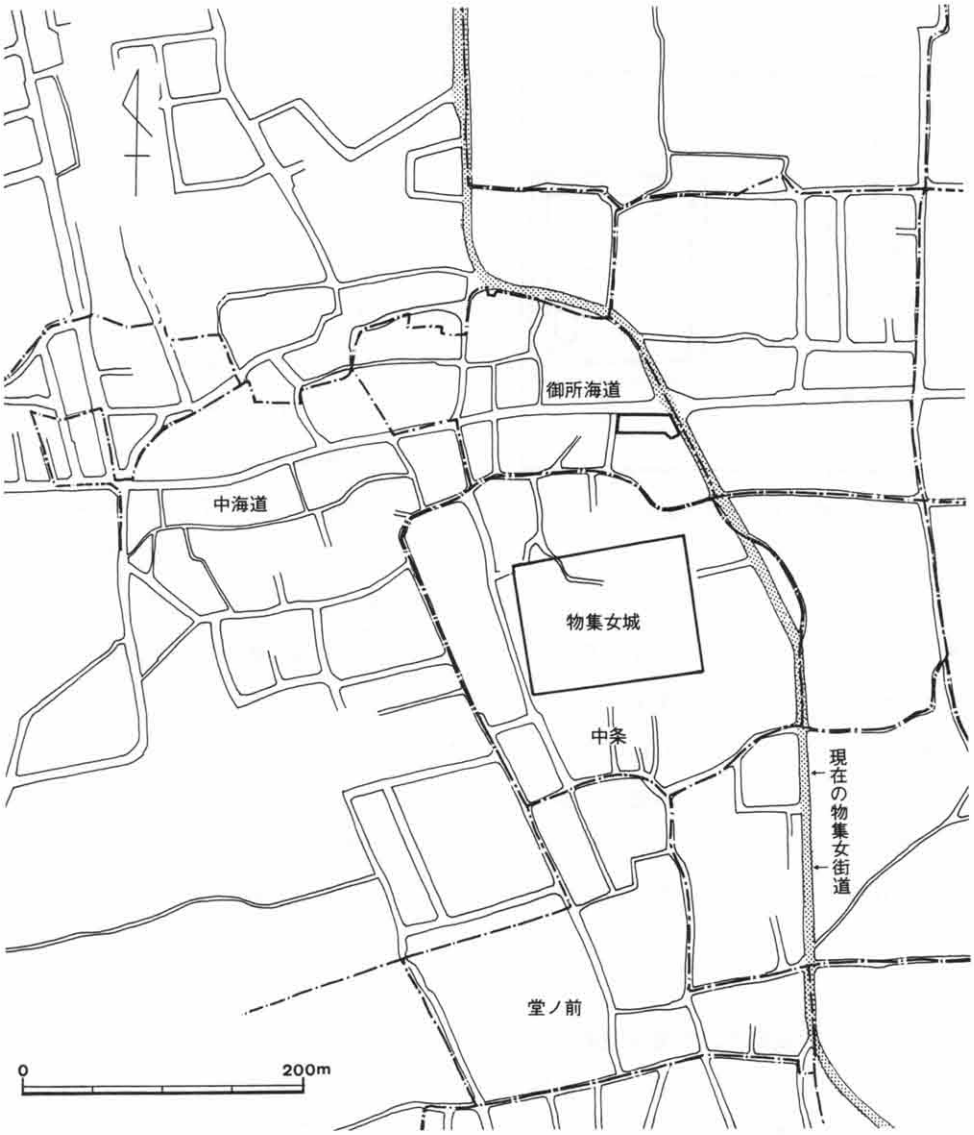
第３図は、永正２(1505)年10月の九条家奉公人信濃小路長盛の手紙の裏にかかれていた『勝龍寺近隣指図(注7)』を模式的に書いたものである。この図は方形プランの城を中に含み、その周りには柵列と考えられる方形の地割りで囲まれている。この柵に囲まれた方形地割りの中には道や寺が取り込まれており、道の両端と、城の前後には木戸と考えられる入り口が表現されている。このような構造が16世紀初頭以前に遡りうる保証はないが、このような構造を持った物が存在していたことは確認できる。

同じく方形プランの城郭としては、開田城(長岡京市)があげられる。開田城は幅９mの濠を持ち、内側には土塁がめぐっていた。城の規模は、一辺約90mの正方形の城郭である。この周りには東西約250m、南北約130mのほぼ長方形に城内という小字名が残っており、開田城もまた、勝龍寺城と同じような構造をしていたものと考えられる。同じく桂川の右岸にある革島城(京都市)は、方形プランの居館の周りに200m四方の区画の痕跡と考えられる水路が認められる。革島城は鎌倉時代末には築かれていたことが知られている。物集女街道に近接する寺戸城(向日市)も地名の検討から同様な構造が推測できる。

再び物集女城に戻ってみると、方形の城郭である他の城と同じような構造をしていると

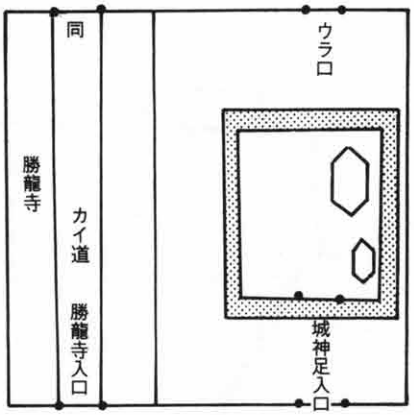


第１図　物集女城跡地形測量図(『向日市史』より転載、一部改変)



第2図　調査地周辺小字図

すれば、城の周りに方形の区画をもっていたものと考えられる。第2図の小字境と現存する道を検討すると、北からまっすぐのびてきた現在の物集女街道が東に90°方向を変える。しかし、それとは別に集落の中にまっすぐはいる小道が存在する。この道は地元の人からは中筋と呼ばれている。本来、物集女街道は曲がらずに物集女城の西辺にむけてのびていたものと想定できる。また、道が屈曲する部分では左右に弓状に東西に延びる道が認められ、ほぼその道に添って小字が分れている。小字名も東側が御所海道、西側が中海道である。海道は、垣内の転じたものと考えられることからも、何らかの区画した施設の存在が



第３図　勝龍寺城模式図

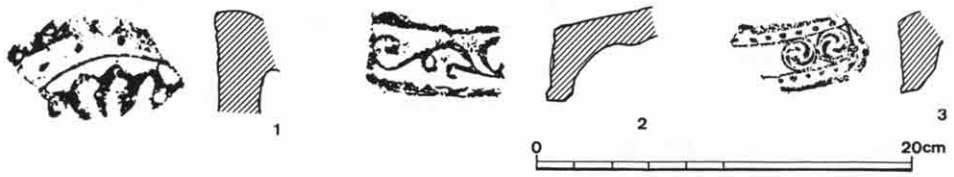
考えられる。山中　章氏は論考(注8)の中で中海道や御所海道の北と南には、北ノ口・出口といった地名が残されており、出入り口があったものと考えられることを指摘している。これらの点を考慮すると、第３図で示した勝龍寺と同様に道を取り込んだ集落構造が認められる。道に近接、あるいは道を内包することによって要衝を押さえる目的があったものと考えられる。ただ、道や字境の方位と物集女城の方位がややずれることから、城と方形の地割りには時期差のある可能性が認められる。周辺の地割りから城の方がやや新しいと仮定でき、物集女氏が周辺の土豪に比べやや遅れて勢力を持ったと想定されることと関連しているであろう。西岡の土豪達が、後の戦国大名に見られるように道の改変を行うほどの力をもっていたとは考えられないことから、現存する物集女街道は集落を迂回する里道が後に利用されたものと想定できる。

このように、現存する「古道」は本来あったルートが、後の時代のさまざまな土地利用の変遷によって改変されている。地図上に現われる視覚的な要素のみならず、本来あったものを復原するためには、時が道に及ぼした影響を１つ１つ取り除いていく作業が必要とされる。

ｂ．奈良・平安時代の中海道遺跡

調査区内では、奈良・平安時代の遺構としては方形掘形をもつ掘立柱建物と、それと方向を同じくする溝が検出されている。遺物には瓦・須恵器・土師器・緑釉・無釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・青銅製品がある。瓦は一般的な集落では用いられないものであることから何らかの特殊な建物のあったことを示している。時期のわかる瓦当は第４図の３に見られるように巴紋が連続するやや小型の平瓦で、平安時代後半のものと考えられる。同時に、この時期のものと考えられる薄手の平瓦も多く出土している。これ以外に出土した瓦には、縄目タタキが認められ長岡京出土の瓦と胎土のよく似たもの、厚手で凸面に格子タタキが認められ、より古い様相の認められるものもある。

1971年の中海道遺跡１次調査(注9)では、第４図１・２で示したように２点の軒瓦が出土している。１は長岡京式7171である。この瓦は、特徴的な薬研状の21葉の蓮弁を持つ軒丸瓦で、



第4図　中海道遺跡出土軒瓦(1・2は1次調査、3は17次調査出土)

長岡京北辺官衙、長岡京左京域、北野廃寺、北白川廃寺、樫原廃寺で出土している。このように都のみならず、山城の寺院に供給されていた瓦であることがわかる。22次調査では、[注10] 17次調査で検出されたものと同じ方位をもつ建物群とともに、長岡京式の鬼瓦が出土している。長岡京造営用の瓦は、公的な用途以外に用いられたとは考えられない。『続日本紀』によると、延暦10年4月18日に山城国部内の寺の塔の修復が命じられており、この瓦は修理所要の瓦として想定されている。[注11] もう1点は、均整唐草文を文様とする平安時代後期の軒平瓦である。

瓦からは長岡京以前から、寺院が中海道遺跡に存在していたものと想定できる。また、青銅製品の存在など仏教的な匂いを感じさせる遺物の存在もこれを支持する。

乙訓地域では、今里(長岡京市)には乙訓寺、寺戸(向日市)には宝菩提院廃寺、友岡には鞆岡廃寺といったように大きな集落ごとに白鳳期以前に遡ることのできる寺院が認められる。中海道遺跡のある物集女地域は、古墳時代後期に物集女車塚が営まれ、乙訓地域でも最も有力な地域としてあげられる。また、中海道遺跡は古墳時代から途切れることなく遺跡が継続しており、これらのことから中海道を中心に物集女地域に白鳳期以前に遡る寺院を営む条件はそろっている。遺跡と近接する寺院としては、北に約1kmの地には白鳳期に造られ、八角形の塔跡が検出された樫原廃寺、南には約1.2km離れて同じく白鳳期に造られた宝菩提院廃寺がある。この遺跡と宝菩提院廃寺及び樫原廃寺の間にはやや距離があり、この地域の勢力を背景とした寺院の存在が予測される。

調査地に近接する来迎寺には、平安時代後期の薬師如来坐像、阿弥陀如来坐像が安置されている。これらの仏像は、近くにあったとされる薬王山光勝寺にあったものと伝えられる。来迎寺に残された『薬王山光勝寺略縁起』では、弘仁9(818)年に嵯峨天皇が薬師如来を本尊とする光勝寺を建立したと記されている。ことの真偽は不明であるが、仏像の存在から平安時代後期には、寺院が存在していたことがうかがえる。しかし、瓦から見ると長岡京期以前には寺院が存在していることから寺の縁起とは異なり、先行する寺院を考えざるをえない。先行する寺院が平安時代にあった寺と同じものであったかは、これまでの資料からは明らかにすることは出来ないが、一括して物集女廃寺の名を提唱したい。

(なかがわ・かずや＝当センター調査第2課調査第4係調査員)

注１　林　　亨「山陽道の復原－大山崎区間－」（『長岡京古文化論叢』Ⅱ　中山修一先生喜寿記念事業会編）　1992

戸原和人「長岡京の官道－長岡京と平安京の山陽道の検討－」（『長岡京古文化論叢』Ⅱ　中山修一先生喜寿記念事業会編）　1992

注２　戸原和人・百瀬ちどり・國下多美樹他「長岡京跡左京第28次(7ANMTG-1地区)調査概要－左京五条三坊四町・棚次遺跡・久我畷－」（『長岡京市文化財調査報告書』第14冊　長岡京市教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所）　1985

奥村清一郎・戸原和人・百瀬ちどり・中塚　良「長岡京跡左京第53次(7ANMSB地区)調査概要－左京六条二坊五・十二町・下八ノ坪遺跡・久我畷－」（『長岡京市文化財調査報告書』第14冊　長岡京市教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所）　1985

注３　足利健亮「国府と古道」（『向日市史』上巻　向日市）　1983　原始・古代編第７章第２節

注４　戸原和人・黒坪一樹他「百々遺跡発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第42冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1991

戸原和人・竹井治雄・石尾政信・黒坪一樹・岩松　保・鍋田　勇「名神高速道路関係遺跡発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第51冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1992

注５　山中　章「物集女城跡」（『乙訓文化』特集号－乙訓の城を歩く－　乙訓の文化遺産を守る会）　1987

注６　中井　均「地域における中世城館の構成－乙訓の視座から－」（『長岡京古文化論叢』Ⅱ　中山修一先生喜寿記念事業会編）　1992

中井　均「中世の居館・寺そして村落－西国を中心として－」（『中世の城と考古学』　新人物往来社）　1991

注７　百瀬ちどり「15.勝龍寺近隣指図」（『長岡京市文化財調査報告書－勝竜寺は語る－』第28冊　長岡京市教育委員会）　1991

注８　注５と同じ。

注９　高橋美久二・金村允人・森　　毅「中海道遺跡発掘調査報告」（『向日市埋蔵文化財調査報告書』第３集　向日市教育委員会）　1979

注10　山中　章・高橋美久二・藤田さかえ他「長岡京古瓦聚成」（『向日市埋蔵文化財調査報告書』第20集　向日市教育委員会）　1987

注11　中海道遺跡第22次調査内容は長岡京連絡協議会にて口頭で発表。

平成５年度発掘調査略報

５．溝谷古墳群

所 在 地　竹野郡弥栄町溝谷市場岡

調査期間　平成５年４月16日～７月23日

調査面積　約3,500m²

はじめに　今回の調査は、国営農地開発工事に先立ち、農林水産省近畿農政局の依頼を受け実施したものである。５世紀代に属する木棺直葬墳３基を調査した。主な成果は以下のとおりである。

調査概要　**１号墳**　丘陵の最高所に占地する１辺15m前後の方墳である。墳丘の一部を調査した。墳丘斜面で土師器高杯・土製模造品少量、墳丘裾で据え置かれたとみられる壺２個体と土坑１基を検出した。壺は５世紀前半～中頃に属するものである。

２号墳　２号墳は、１号墳の立地する主尾根から南北に派生する尾根上に位置する直径約28mの円墳である。墳頂部中央に長さ約10m・幅約3mの長方形の墓壙がある。２段墓壙で、墓壙底面において木棺の痕跡を検出した。棺は全長約7.8m、幅は南端で約66cm、北端で約50cmの規模を有する。木口板は、側板の端から南側で約1.8m、北側で約1.5m内側に設けられている。南北両木口板の中間には仕切り板とみられる痕跡が認められた。棺内には５cmほどの厚さで小礫が置かれ、礫の表面には赤色顔料が認められた。棺外遺物として直径９cmほどの鋸歯文鏡と碧玉製管玉２点、棺内遺物として鉄製刀子１点がある。

３号墳　２号墳の東側に張りだす舌状の小丘陵を削平して古墳としたもので、東西約11m・南北14mの規模をもつ。中央に長さ約4.9m・幅約1.4m・深さ約0.8mの素掘りの墓壙が設けられていた。墓壙底には幅約40cm・長さ約2.6mの範囲で礫混じり粘土が敷かれていた。棺底に敷かれたものだろう。出土遺物はない。

（田代　弘）

調査地位置図(1/25,000)

6．堀坂神社古墳群

所 在 地　熊野郡久美浜町字長野小字五反田

調査期間　平成５年７月７日～９月７日

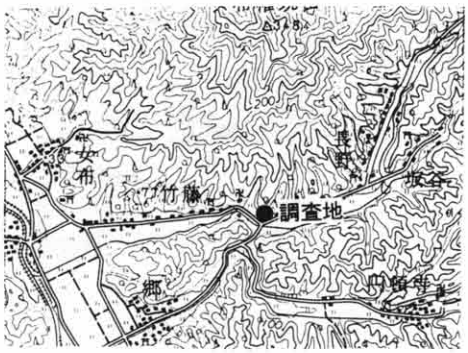
調査面積　約180m²

はじめに　この調査は、京都府土木建築部が計画・推進している「府道網野久美浜線道路改良事業」の工事に先立ち、依頼を受けて実施したものである。堀坂（ほっさか）神社古墳群は、横穴式石室を主体とする円墳２基からなる。道路沿いの崖面に石室の一部が露出していたことから、今回の工事が計画され発掘調査に至った。

調査概要　当古墳群は、大正12年に調査されており、「長野ノ古墳」として『京都府史蹟勝地調査會報告』第四冊に報告されている。そこには、出土遺物の一部と古墳の位置を記した略図が載せられており、今回の調査は、石室の図面及び出土遺物の実測図作成及び補足を主たる目的として実施した。

１号墳　古墳の一部が造成範囲にかかるため、その部分の調査となった。大正12年の報告によると、片袖式の横穴式石室を主体部とする古墳で、長さ約5.7m、玄室での幅約1.6mを測る。丘陵先端に位置する２号墳の東方約18mに位置する。

２号墳　無袖式の横穴式石室を主体部とする古墳で、径約11mの円墳であった。墳丘及び石室の大半は、堀坂神社建設時にかなりの削平を受けており、石室については基底石付近が残っていたにすぎない。石室は、確認長約５m、玄室での幅約1.3m、羨道部での幅約1.1mを測る。羨門部はすでに崩落しており、崖下には数個の石があり、もとは長さ約６m前後あったものと思われる。石室内からは６世紀後半の土器片がわずかに出土した程度で、大正時代の調査で掘り出されているようである。また、床面も確認できなかった。石室西側から、半円形状にめぐる列石を確認した。列石は、墳丘中に埋設されていた。

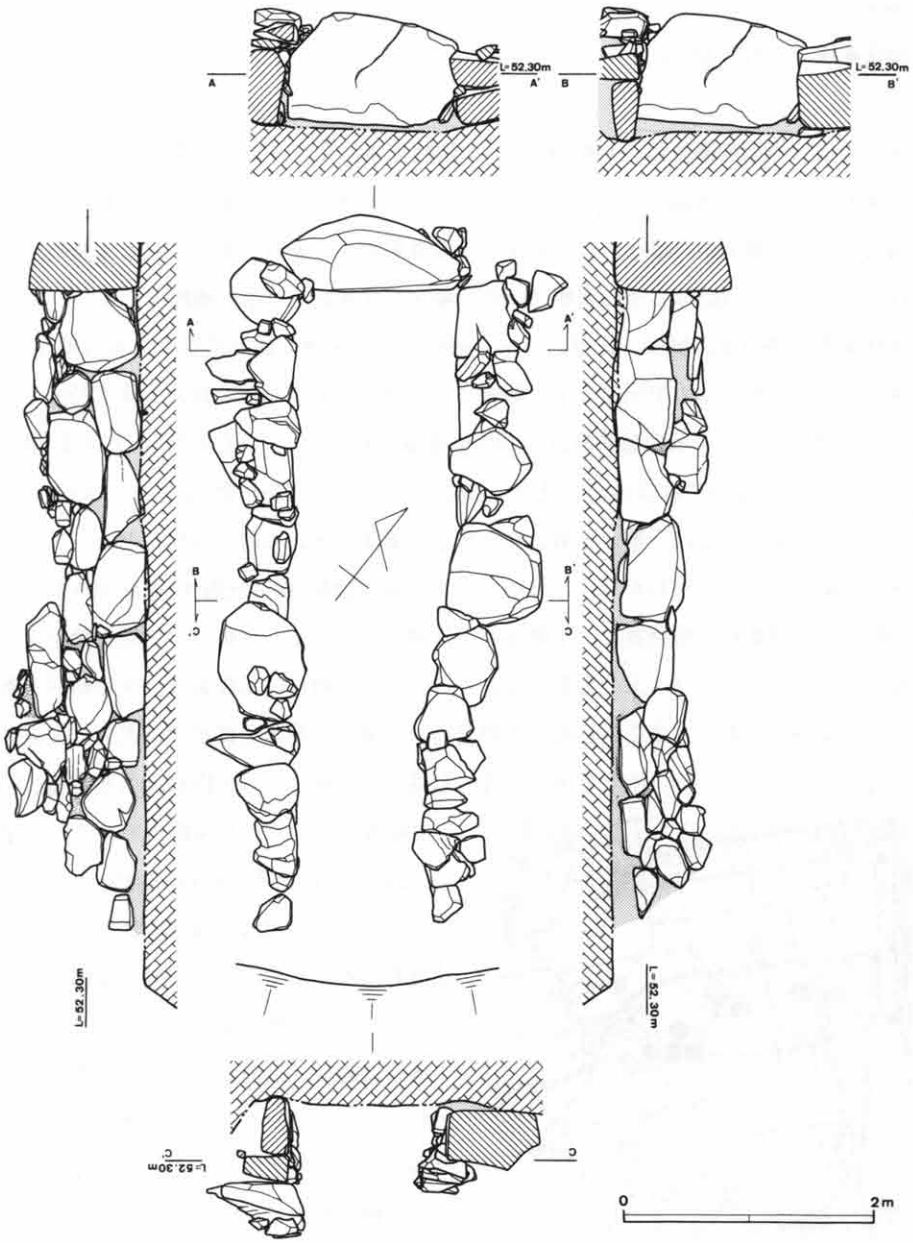


第１図　調査地位置図(1/50,000)

まとめ　今回の調査により、６世紀後半の古墳２基を再確認した。出土遺物は、大

正時代の調査でそのほとんどが掘り出されており、両古墳の時期については、今回のわずかな土器片と、古墳が所在する長野区で保管されていた十数点の土器から判断した。このように遺物の出土状況は確認できなかったものの、遺物・遺跡の再調査を実施できた意義は大きい。

（岡崎研一）



第２図　２号墳石室実測図

7．嗎岡南古墳・嗎岡遺跡

所 在 地　与謝郡加悦町字後野小字嗎

調査期間　平成５年５月18日～７月29日

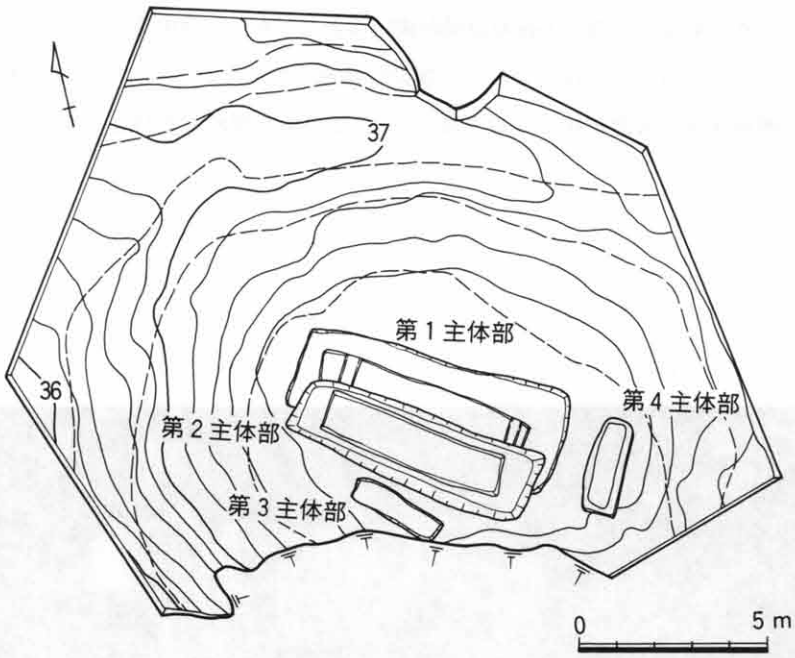
調査面積　約2,000㎡

はじめに　今回の調査は、176号バイパス新設工事に先立って、京都府土木建築部道路建設課の依頼により実施した。これは、1992年冬に実施した試掘調査から通算して３次目の調査となる。嗎岡南古墳は、５世紀末から６世紀前半にかけて築造された４基の主体部を持つ方墳、嗎岡遺跡は、その北側に広がる縄文時代早期～近世の遺跡である。

調査概要　嗎岡南古墳は、長軸19.5m・短軸10.5mを測る長方形墳で、底面幅2.5mの周溝がめぐる。墳丘は大半を盛り土で築成し、墳頂部で２点の**瓮**を据えて墓前祭祀を行っている。確認された４基の埋葬施設は木棺直葬墓(第１・２・４主体部)と土壙墓(第３主体部)であり、規模的には５m余の長大なもの(第１・２)と2.6m余(第３・４)のものに二分される。時期の上では、第１と第３から第２と第４へと大小の主体部がセットとなって推移して築かれたことがわかり、この間に土器の棺内副葬(特に転用枕)が開始されることが判明した。副葬品は須恵器12、土師器２、鉄鎌１、刀子２、鉄鏃14、土製紡錘車１、緑色凝灰岩製管玉２、ガラス玉２を数える。この古墳を特徴付ける要素は、赤色顔料を多用することであり、第１・第２主体部は木棺全体に、第３・第４主体部では頭部と推定される付近に塗布されている。中でも第２主体の墓壙内小口部には蓋杯内に赤色顔料塊を収納して副葬していた。加悦町内ではこの古墳の北３kmに入(丹生？)谷の地名があることが注目される。この古墳の被葬者は、後野円山１号墳を頂点として七面山古墳に従属する集団の長であった可能性を考えたい。

第１図　調査地位置図(1/25,000)

嗎岡遺跡は、以前から押型文土器の散布地として知られていた。今回の調査でも約90点の高山寺式土器が出土した。また、７基の陥穴状遺構を検出した。陥穴状遺構は、径１m前後の円形や楕円形のもので、底面に深さ10



第２図　検出遺構配置図

～20cmの小穴を穿っており、逆茂木の跡と推定される。１基は、確実に嗎岡南古墳封土におおわれた旧表土下にあった。また、古墳時代以前の遺物は、高山寺式の押型文土器がほとんどであり、この陥穴状遺構の時期は縄文時代早期の可能性が高いと判断できる。配置はまばらに散在する。陥穴状遺構については、陥穴かどうかという機能と時期比定について古くから議論がある。京都府内では日吉町天若遺跡で縄文時代後期のものが検出された。しかし、早期段階の例はきわめて少ないので、この陥穴状遺構を正当に評価するためには、資料の蓄積を待たねばならない。だが、高山寺式土器の広範な分布を考えるとき、生産基盤の一つとして、陥穴による組織的狩猟方法の普及があったとすれば、その意義は大きい。今後、西日本各地でも東日本の事例のように、縄文時代早期における陥穴状遺構の確認例の増加が望まれる。

なお、この遺跡の縄文時代早期の土器は、高山寺式の指標である楕円形文と外面を削りによった無文のものに二大別することができる。前者は楕円文の形態によって、(ａ)網目状を呈するもの、(ｂ)細長い粒状を呈するもの、(ｃ)米粒大の極小のものの３類に細分できる。このうち、口縁端部外面に原体を横方向に回転させたものもある。口縁部内面に斜向沈線を持つ破片は全体的に少ない。また、補修孔が認められる土器片もあった。現在、丹後半島では12か所で押型文土器が確認されており、ネガティブ文は無く、黄島式、高山

寺式または穂谷式の三者が出土する遺跡と、いずれか一型式が出土する遺跡とがある。嗎岡遺跡は後者であるが、斜向沈線の間隔が狭いことなどから、高山寺式でも古い段階に該当すると考えている。これは、これまで加悦谷地域内で知られていた押型文資料(有熊遺跡資料、嗎岡遺跡内後野円山２号墳下層資料)の空白期を埋める資料として位置づけることができる。

(河野一隆)

第３図　嗎岡南古墳・嗎岡遺跡全景(航空写真)

8．白米山北古墳

所 在 地　与謝郡加悦町字後野小字白米山

調査期間　平成５年７月20日～９月10日

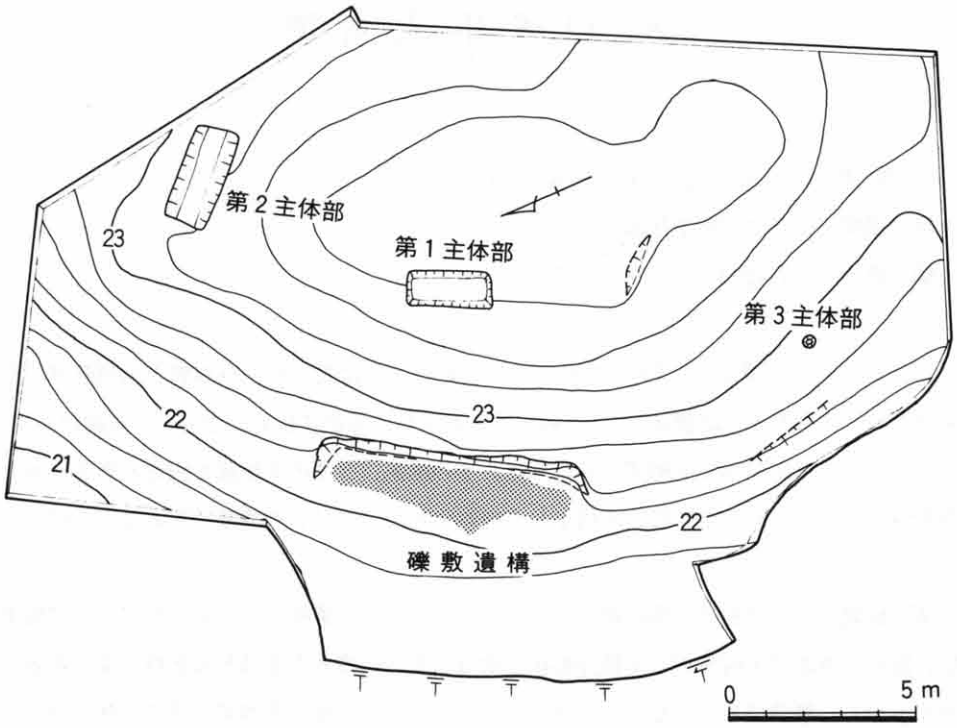
調査面積　約450m²

はじめに　この調査は、国道176号バイパス新設工事に先立ち、京都府土木建築部の依頼を受けて実施した。調査地は、『京都府遺跡地図』に記載されていないが、試掘の結果、遺跡であることが判明し発掘調査を行った。その結果、３基の主体部と円礫を敷きつめた礫敷遺構を検出し、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての墳墓であることが確認された。

調査概要　この墳墓は前期の前方後円墳、白米山古墳に隣接している。野田川の沖積平野に臨む丘陵端部を削り出して長方形状に墳域を画し、盛り土をほとんど持たず、明確な墳形をつくる意識はみられない。主体部は第１・第２主体部が木棺墓、第３主体部が土器棺墓であった。２基の木棺墓は長2.7m・幅1.5m程度の規模を測るもので、箱形木棺を納める。副葬品は第１主体部から鉄剣、第２主体部より甕口縁部の破砕供献が認められた。なお、鉄剣は、茎が短い庄内期～古墳前期特有のもので、布らしき有機質片が付着している。第３主体部は、径１mの円形土坑に単口縁の甕を倒立して納める。この甕の型式から、第１・第２主体部より時期は新しい。

この墳墓を特徴付ける施設は墳裾の礫敷遺構である。これは、平野側の墳丘を削り込んで長6.7m・幅2.5mの長方形の平坦面を造り、そこに円礫を一面に敷つめたものである。円礫中には旧表土とみられる黒褐色土がみられるから、この施設が墳丘と並行して築かれたことがうかがえる。この礫面上には台付鉢・高杯・器台などの供膳容器が潰れた状態で出土し、柳葉形鉄鏃も共伴していた。これらとはやや離れて、壺２点が破砕されて礫と混在して出土した。１点は、茶褐色の胎土に角閃石を混入し、櫛描き文装飾の肩部に円形

第１図　調査地位置図(1/25,000)



第２図　検出遺構配置図

浮文を持つ河内産とみられるものである。もう１点は、擬凹線の複合口縁が直立する北陸の影響が指摘でき、２点とも外来系の壺といえる。これに対し、先述した供膳容器類は、胎土及び形態からみて、丹後産のものである。なお、煮沸用の甕や甑はこの施設内には見られなかった。

まとめ　以上の調査成果をまとめると、以下のとおりである。

(1)河内産とみられる庄内期の加飾壺が出土したことで、共伴する丹後の土器を畿内の編年の中に位置づける資料が得られたこと。もっとも、原産地(河内)と搬入先(丹後)の時間差は、中丹地区の実態から見積もらねばならない。この墳墓の年代的位置は、野田川水系では野田川町西谷墳墓群より新しく、加悦町内和田５号墳(上層)よりも古いとみられる。なお、第３主体部の甕は布留式中段階並行期と考えられる。

(2)加悦谷地域において、前方後円墳の登場以前に畿内系土器の搬入を確認できたこと。従来まで、この地域の土器様式には北陸・山陰の影響が指摘されていた。若狭の美浜町口背子遺跡でも河内産庄内甕が搬入されている。丹後でもこの時期の畿内系土器の出土例が今後増加することが予想される。

(3)定型化した古墳祭式以前の祭祀過程をうかがう資料が得られたこと。ここで改めて

土器供献のあり方を図式化すると次のとおりとなる。

(a)　供膳容器.....在地(丹後)系.....並置供献

(b)　貯蔵容器(壺).....外来(河内、北陸)系.....破砕供献

この両者は時期差ではなく、祭祀過程の段階差と見るのが妥当である。これと異種同型構造をもつ遺跡が埼玉県鍛冶谷・新田口12号墓、御伊勢原第１・第２号祭祀跡、長野県駒沢新町第１～３号祭祀跡などで指摘できる。

以上のように、白米山北古墳は多様な問題をはらんでいる。今後、庄内期の祭場の実態が判明する資料が蓄積されることを期待したい。

(補注)　なお、白米山北古墳は弥生終末期から古墳時代前期にかけての墳墓なので、「古墳」の名称はやや不適切かもしれない。墓葬の様式からみれば丹後半島の弥生墓の伝統にのるものととらえてさしつかえない。

(河野一隆)

第３図　白米山北古墳全景(航空写真)

9．今　林　古　墳

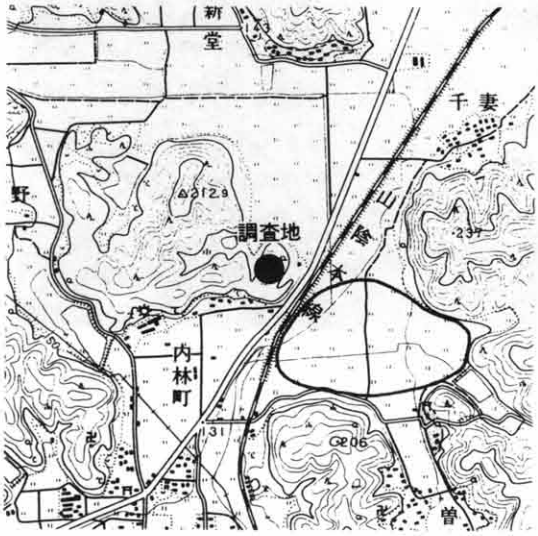
所 在 地　船井郡園部町大字内林小字今林

調査期間　平成５年４月26日～７月15日

調査面積　約600㎡

はじめに　今林古墳はＪＲ山陰線園部駅の北約2.2kmの地点に位置している。調査地付近には古墳時代前期の前方後円墳である園部垣内古墳がある。また、当古墳の立地する丘陵南東側の眼下の水田地帯には、弥生時代終末から古墳時代前期にかけての集落跡である曽我谷遺跡がある。今回の調査は、国道478号バイパスの建設に伴い、建設省近畿地方建設局の依頼を受けて行った。

調査概要　今林古墳は、『京都府遺跡地図』にも登録された古墳であるが、現状では古墳状隆起の可能性もあったため、はじめに古墳かどうかの確認調査を行った。墳頂部に設定したトレンチでは、腐植土層を除去した段階で拳大の礫の集石が見られ、これに混じって古式土師器の壺底部などの破片の出土があり、古墳であることが判明した。東西約12ｍ・南北約９ｍ、墳裾との比高差約１ｍを測る、きわめて整った墳形を呈する長方形墳である。墳丘は、地山上面に約0.4ｍの盛り土を施して築成している。墳丘裾周辺には周溝のような区画溝はなく、墳裾東辺に沿って土師器を包含した暗褐色土の落ち込みを確認した。墳頂部では幅約0.5ｍ・東西約２ｍの範囲で拳大の礫の集石を確認した。この集石には古式土師器の壺口縁、底部、高杯などの破片が伴っており、おそらくこれらの土器片は葬送儀礼として供献されたものと思われる。主体部はこの集石に沿って、ほぼ墳丘中央部で確認した。主体部の規模は長さ約3.5ｍ・幅約1.1ｍ・深さ約0.15ｍを測る。主軸はＮ－95°－Ｗである。

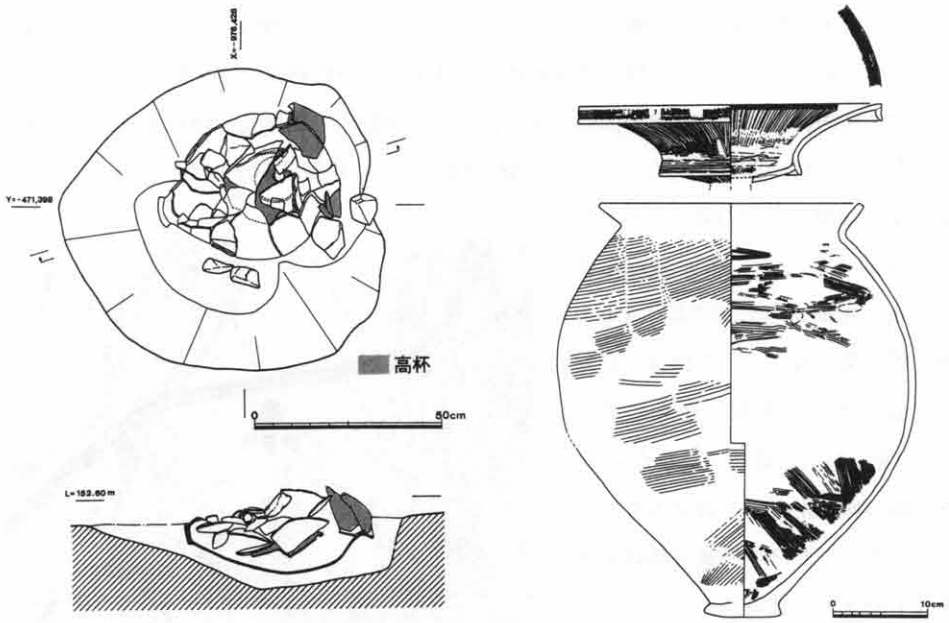


第１図　調査地位置図(1/25,000)

主体部内に副葬品は見られなかった。また、盛り土の下層で４基の主体部を確認した。そのうち３基は長さ約１～1.2m・幅約0.4～0.5m・深さ約0.3～0.4mの隅丸長方形を呈する。残りの１基は土器棺墓で、径約0.8mの円形の掘形内に甕が南側に口縁を向けて横向きに埋め置かれたもので、口縁部には高杯の杯部を転用した蓋が杯部を内面にしてかぶせてあった。この４基の主体部は規模から見て、いずれも小人用と思われる。出土遺物は集石に伴う古式土師器のほか、墳丘北及び東裾、盛り土内から出土した二重口縁壺、甕、鉢などがある。この中で、土器棺に使用された甕はほぼ完形に復原できる。

まとめ　今回の調査によって、今林古墳は古墳時代前期初頭までさかのぼる最古級の古墳であることが判明した。この古墳の南方には、時期的にほぼ併行する環濠集落である曽我谷遺跡があり、集落と墳墓としての関連が考えられる。さらに、園部盆地には庄内式併行期に属する園部黒田古墳が知られており、この盆地における古墳出現期の状況を知る貴重な資料となった。

（柴　暁彦）



第２図　土器棺墓及び出土土器実測図

10. 沢ノ谷遺跡

所 在 地　船井郡八木町大字玉ノ井小字沢ノ谷

調査期間　平成５年７月19日～９月10日

調査面積　約200㎡

はじめに　沢ノ谷遺跡は国道９号線とＪＲ山陰線に先端を寸断された小丘陵の標高約130m前後の稜上に立地する。『京都府遺跡地図』所載の周知の遺跡、大鳥羽池古墳に該当する。当初、「沢ノ谷古墳」として調査を開始したが、調査の結果、当該地は古墳ではなく、新たに住居跡などの遺構が確認されたため、「沢ノ谷遺跡」と名称を変更して調査を行った。調査は、国道478号バイパスの建設に伴い、建設省近畿地方建設局の依頼を受けて実施した。

調査概要　調査地内に２か所の古墳状地形が見られ、この部分にトレンチを入れて確認したが、地表下約0.15mで岩盤が現われ、古墳ではないことが判明した。あわせて付近にトレンチを拡張したところ、竪穴式住居跡、土壙墓、礎石建物跡などを確認した。

竪穴式住居跡は、径約８mの円形であり、斜面上半部分の周壁及び周壁溝、床面が遺存していた。住居の構築にあたっては、岩盤を削り出して周壁及び床面を作り出している。遺存する周壁の高さは約0.5mを測る。周壁に沿って、床面には幅約0.15m、床面からの深さ約0.1mを測る周壁溝がめぐる。床面は、岩盤上に盛り土して整地したものである。床面で柱穴は確認できなかった。住居跡の埋土からは凹線文の土器などが出土しており、所属時期は弥生時代中期後半と思われる。

第１図　調査地位置図(1/25,000)

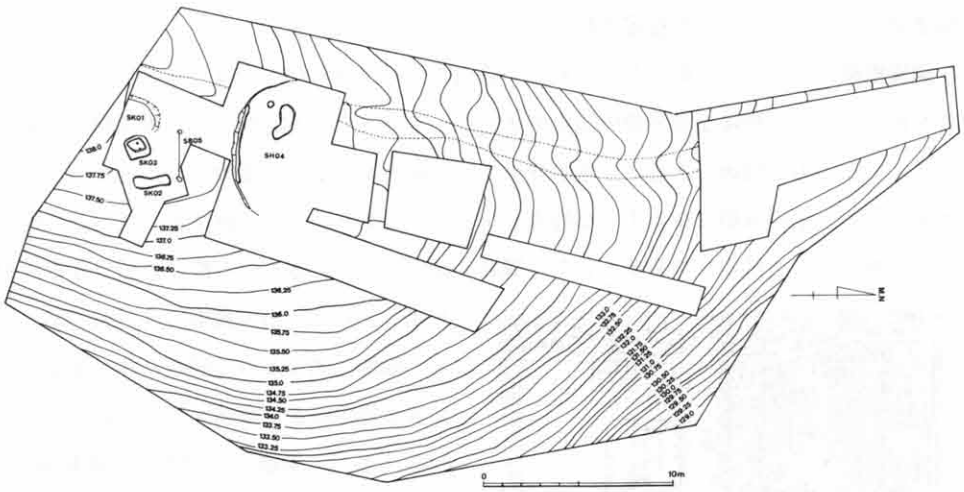
土壙墓は長さ約２ｍ・幅約0.5ｍ・深さ約0.3mを測る。主軸方向はＮ－18°－Ｗである。土壙上面に盛り土は見られなかった。土壙は岩

盤を掘削したものである。土壙の南西隅は攪乱のため、やや幅が広がり、底部も一段深くなる。土壙埋土は、粒状の木炭が充填され、また、土壙底部側面に沿って木炭が並べられていた。出土遺物は、土壙長軸両端から鉄鉢形須恵器が割れた状態で出土した。時期はこの須恵器から、奈良時代に比定できる。土壙は深さが浅いため、後世に削平を受けた可能性がある。

礎石建物跡は、礎石に人頭大の扁平な川原石を用いたもので、柱間寸法は約2.5mを測る。１間分を検出したのみで、規模は不明である。出土遺物は、竪穴式住居跡の埋土中から出土した、凹線文の短頸壺口縁部片・高杯・無文土器と思われる口縁部・把手、また包含層から河内系の土器といった弥生土器や、土壙墓から出土した鉄鉢形須恵器などがある。

まとめ　今回の調査でこの丘陵上には、新たに弥生時代中期後半(畿内第Ⅳ様式)の住居跡が確認された。丘陵上での調査の少ない南丹波においては初の事例となった。今後はこうした立地での住居跡の検出例が増加してくるものと思われる。また、奈良時代の土壙墓は、調査例に乏しいこの地域にあって、埋葬方法が判明した貴重な調査例となった。

（柴　暁彦）



第２図　遺構配置図

11. 平安京左京一条二坊十四町(南トレンチ)

所 在 地　京都市上京区西洞院通下立売上ル西大路町149-1他

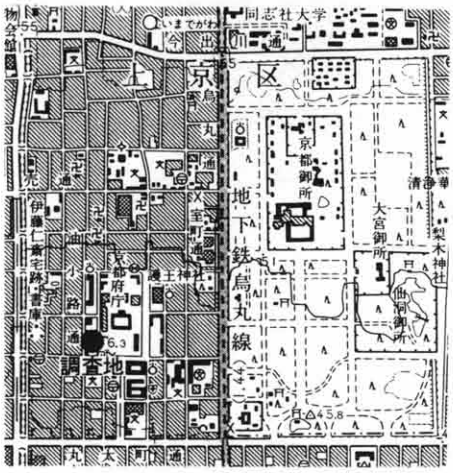
調査期間　平成５年４月19日～９月８日

調査面積　約900㎡

はじめに　平安京左京一条二坊十四町の発掘調査は、京都府庁西側施設整備事業に伴って、京都府住宅供給公社の依頼を受けて実施した。

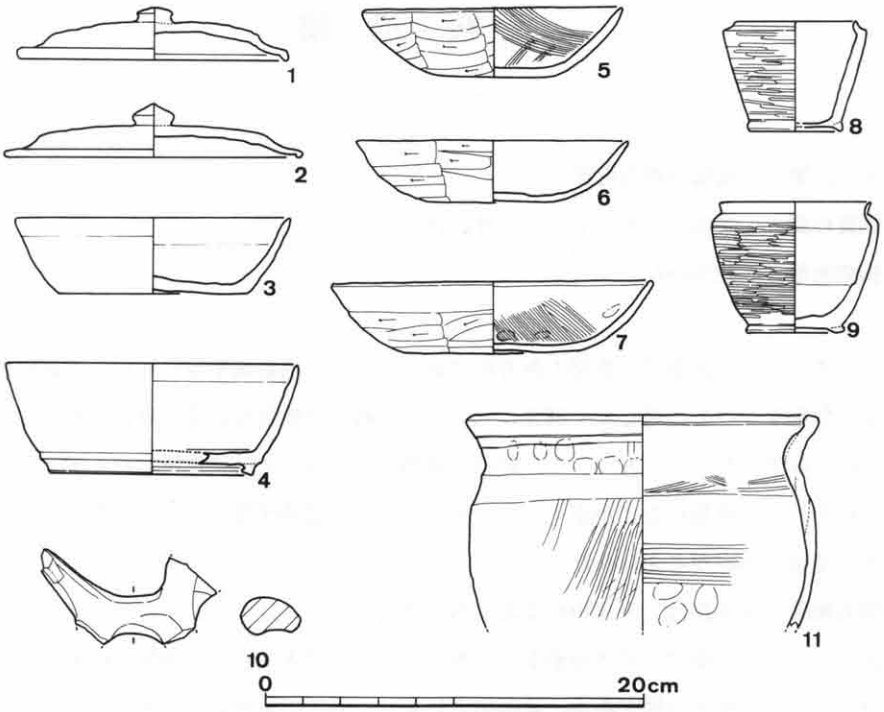
当該地は、京都府庁の西隣接地に位置しており、平安京左京一条二坊十四町内に当たる。北方には、近衛大路(現：出水通)をはさんで豪商で知られる茶屋四郎次郎邸が所在していたことが判明しており、また、十四町内には『大内裏圖考證』の中での検証があり、平安時代以降の囚獄司・左獄の存在が推定されている。それらについては、『平治物語』・『吾妻鏡』・『三代実録』・『後清録記』などの文献に記載事項があり、町内の東寄りに関連施設が所在したことが推定されている。

調査概要　トレンチ全面において安土・桃山時代～江戸時代の土坑・井戸・柱穴・溝などを検出したが、複雑な切り合い関係が多いこともあって、各時期ごとに遺構配置を確認できていないのが現状である。土坑の埋土には、礫・瓦・焼土・炭のように土坑の機能を考える上で一定の根拠になるような特徴を示すものもあり、また、唐津皿の見込みに残存する目跡が、胎土目のものを多く含む遺構群と砂目のものを多く含む群に分類できる様相を呈している。出土遺物には、皿・壺・羽釜・炮烙・鍋などの土師器、鉢・釜などの瓦質土器のほか、備前・丹波・信楽などの陶器、瀬戸・美濃・唐津などの施釉陶器、中国製磁器、金箔瓦、銭貨などがある。



第１図　調査地位置図(1/25,000)

一方、平安時代の遺構は、柱穴・土坑・井戸・溝などがあり、土坑170では、平安京Ⅰ期新型式に比定できる須恵器、土師器、土馬などが出土している(第２図)。また、遺物包含層内から皇朝十二銭・富寿神宝(818年初鋳)が出土しており、９世紀第１



第２図　土坑170出土遺物実測図(1/4)

四半世紀に整地を伴う土地利用があったことを示唆している。トレンチ中央で検出した井戸は、検出面から約3.3mの深さがあり、一辺約1.5m前後の方形の井戸枠が想定できる。井戸内から、壺・椀・皿などの灰釉陶器、皿・椀などの緑釉陶器と土師器・須恵器・軒平瓦のほか、「徳万」の墨書がある灰釉陶器が出土している。細部の検討を行っていないが、９世紀中葉から後半に比定できる。なお、他に、土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・無釉陶器・瓦や緑釉陶器の唾壺、緑釉の平瓦・陰刻花文皿・香炉・火舎、灰釉陶器の三足盤、須恵器の二面硯・円面硯、難波宮式の軒平瓦などが主にトレンチ南半部で出土している。

まとめ　今回の調査では、平安時代、安土・桃山時代、江戸時代前期の遺構・遺物の検出が中心となった。特に、平安時代の遺物包含層には、９世紀第１四半世紀に比定できる資料が多く、また、９世紀中葉～後半の井戸や10世紀の土器が出土する土坑などを検出した。当該地には、『大内裏圖考證』などによって囚獄司・左獄の存在が推定されているが、今回の調査成果とどのように関連するのか、今後の整理作業の進展に期待したい。

（小池　寛）

12. 桜　遺　跡

所 在 地　綾部市西方町桜

調査期間　平成５年６月７日～７月15日

調査面積　約700m²

はじめに　この調査は、綾部市西方町における府営ほ場整備事業に伴い、京都府農林水産部の依頼を受けて実施した。調査に先立って、綾部市教育委員会と京都府教育委員会による試掘調査が行われており、その結果、耕作土からは二次的に堆積したと考えられる６世紀後半代の須恵器片などが出土した。そのため、古墳時代後期の住居跡など、集落に関係する遺構の存在が考えられた。

調査概要　桜遺跡は、由良川の支流である犀川の上流に位置し、さらに上流の二河川が合流するわずかに開けた扇状地形上に立地している。調査地点の南西側丘陵先端部には古墳時代終末期の鶏塚古墳がある。試掘調査により、若干の須恵器片の出土した２地点を拡張する形で、今回の調査区を設定した。

第１トレンチからは建物跡と考えられる柱穴列及び土坑等が検出された。柱根が遺存する柱穴掘形からは、６世紀後半代の須恵器細片が出土しており、古墳時代後期以降の建物跡１棟が推定できる。第２トレンチには明瞭な遺構が存在せず、扇状地特有の砂利、シルトの交互層が南西側に傾斜して堆積しており、耕作土などから須恵器片や後期縄文土器細片が採集された。西方町では以前にも縄文時代の土器が採集されているため、遺構が存在する可能性は高い。

調査地位置図(1/50,000)

まとめ　今回の調査では柱穴列や土坑等を検出したが、柱穴の深さからみて、古墳時代の遺構面は削平されたものと思われる。また、遺物包含層から出土する土器の多くは、磨耗しており、二次的堆積であるため、地形的にも北西のより上流を中心に古墳時代後期の集落が存在していたとみたい。

（野島　永）

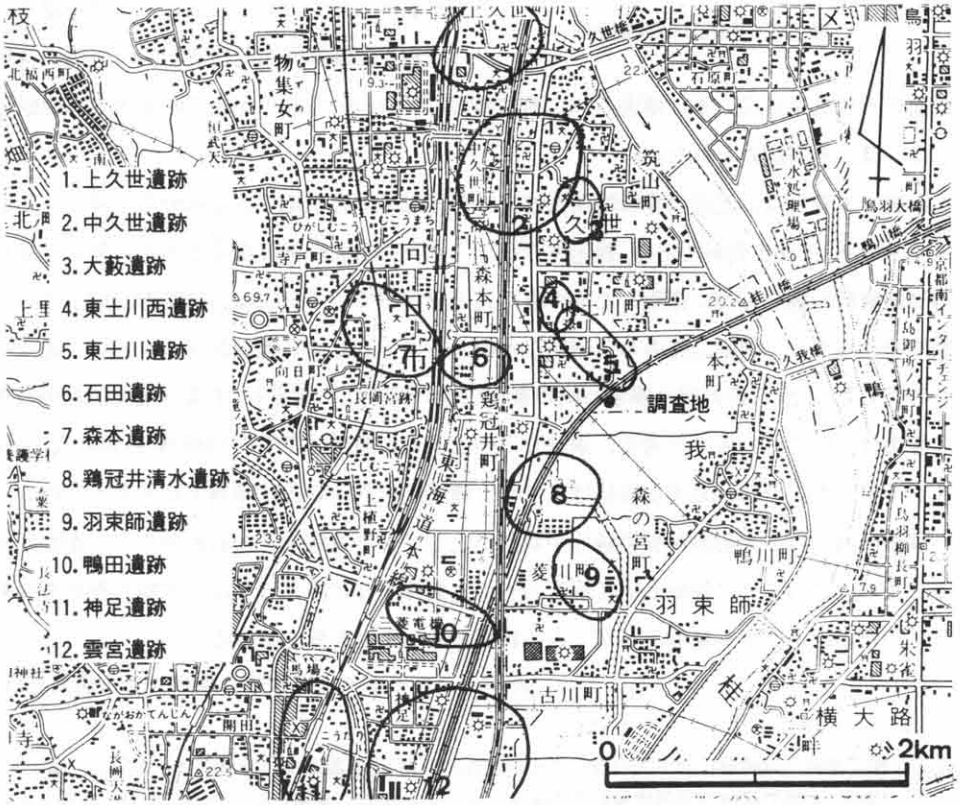
資料紹介

銅剣形石剣の新事例

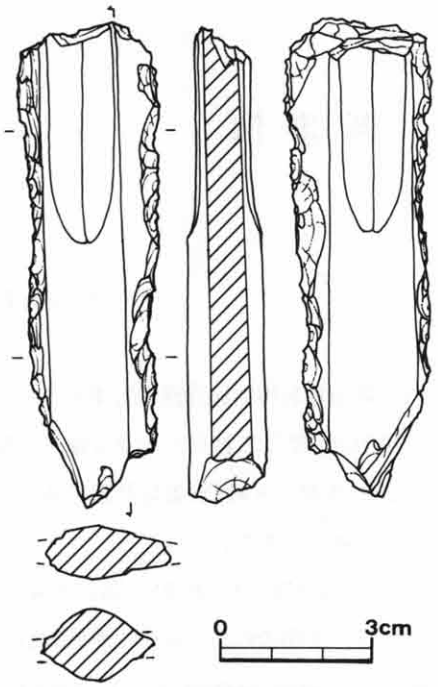
中川和哉

はじめに　今回紹介する遺物は、中央自動車道西宮線通称名神高速道路走行車線の拡幅工事に伴う発掘調査で出土した。調査区は長岡京域内に位置しており、長岡京跡左京第303次調査(7ANVNR)の次数を持ち、長岡京左京南一条四坊四・五町(新条坊左京二条四坊二・七町に当たる。所在地は京都市南区久世東土川町金井田である。

近接する弥生時代の遺跡としては、東土川遺跡・東土川西遺跡・中久世遺跡・鶏冠井遺跡・石田遺跡があげられる。東土川西遺跡・中久世遺跡では、中期の弥生土器のほか磨製石剣



第1図　調査地及び周辺主要弥生時代遺跡分布図



第２図　銅剣形石剣実測図

が出土している。大量の銅剣形石剣を出土した神足遺跡は直線距離で３㎞である。

遺物　第２図に示した石剣は、中世の素掘り溝中から出土した。溝の検出面下層には、弥生時代中期の沼状遺構が広がる。石器に用いられた石材は、やや青みがかった灰色を呈する粘板岩である。石剣は破損しており、元と刳込の脊部及び翼部分の一部が残存している。元部の脊は円柱状に仕上げられており、刳込部に当たる部分から鎬(しのぎ)が生じ銅剣を忠実に模している。破損面の風化は、残存する器面の風化と同様であり、ほぼ同一時期に形成されたものと考えられる。なかでも翼部の破損面は両面からの幾度もの加打によって壊された形跡が認められる。先端部方向及び茎方向の破損面は折れ面の形状を呈している。研磨された面は非常にていねいな加工が施され察痕等は肉眼的には、ほとんど認められない。

小結　本資料は、元部の脊の断面形が丸く刳込部の脊と想定できる部分から鎬が生じるタイプであり、初出資料である。種定淳介氏[注1]は、剣身の断面が強固な脊と水平に延びる翼を持つ銅剣形石剣を忠実に模倣したものをⅠ式と分類している。氏は、銅剣形石剣Ⅰ式の祖型を求めるため、銅剣に施される研磨がどのようにⅠ式石剣に模倣されるかという視点から考察した。Ⅰ式石剣の脊元鎬を石剣の製作工程の簡素化と想定し、本来は鎬を消し円柱状に脊を仕上げていたものと考え、銅剣をそのまま石に模倣したもの(銅剣形石剣０式)の存在を予想した。今回紹介する資料はまさしく種定氏の言う０式に相当すると考えられる。

調査区内では、大形の粘板岩破片が数点出土しており遺跡内での石器製作をうかがわせる。また、このように銅剣と同じ形態のものを製作するに当たっては、本物の銅剣を保有していたか、いつでも見ることができる状況にあったとも想定できる。

(なかがわ・かずや＝当センター調査第２課調査第４係調査員)

注１　種定淳介「銅剣形石剣Ⅰ式の成立とその意義」(『究班』埋蔵文化財研究会15周年記念論文集) 1992。本稿で用いた用語は種定氏の論文に基づく。また、本稿をまとめるにあたって種定氏に多くのご教示をうけた。

府内遺跡紹介

61. 勧修寺旧境内

勧修寺は、京都市山科区に所在する真言宗山階派の寺院であって、現在も法燈を伝えている名刹である。その草創は、平安時代にまでさかのぼり、現在にいたるまで人々の信仰の対象となっている。

草創については、不明な点が多く、現在までに諸説がある。たとえば、『類聚三代格』延喜5(905)年9月21日付け太政官符によれば、「贈皇后存生之日、爲令誓護天皇陛下、所建立也」とあるが、『扶桑略記』の同日条によれば、「以勧修寺勅爲定額寺」とあるため、このときよりもずっと前に建立されていたことになる。しかし、『勧修寺縁起』・『雍州府志』・『勧修寺長吏次第』などの後代の史料類には、「延喜帝即位御願、自醍醐寺以前建立也」とか「建立本願右大臣定方」とあって、醍醐天皇が即位後に母親の胤子の弟で右大臣の藤原定方に建立させたという下りになっているため、いずれが正しいか、不明な点があった。しかし、『類聚三代格』には元史料が収められていることから、こちらの記述が史実を伝えていることは確実である。そのため、勧修寺の草創は、醍醐母后胤子の御願で建立がはじめられ、弟の定方が追善のためそれを引き継いで延喜年間に完成し、延喜5年に入って定額寺に列せられたと見たほうがよかろう。

ただ、なぜ、この山科の地が選ばれたかは必ずしも明らかではないが、『勧修寺縁起』などでは、胤子の母親が山城国宇治郡大領の宮道弥益の娘であったことから、この宮道氏の宅地跡に建立したとされている。真偽のほどは明らかではなく、現在のところ伝説の域をでていない。今後、『勧修寺縁起』の本文研究などが進めば次第に明らかになろう。

遺跡所在地(1/50,000)

ところで、ここで行わた著名な法会(ほうえ)は、右大臣定方の忌日として8月1日から4日までの間実修される法華八講の最後の4日の殿上儀式である。このことは、『勧修寺縁起』には、「この御子の申をこない給けるとかや。八月四日がほどは。殿上の儀式を。勧修寺に

うつされて。.... 天下にためしなき事なるべし。今にいたるまで。氏の長者をはじめて。しかるべき上達部殿上人。山川をしのぎて。華軒をうながすこと。としをへてたえず。」とあるように、氏長者をはじめ、一門のかなりの人物が参加する行事として著名であった。ただ、ここで氏長者というのは、藤氏長者のことではないようである。定方の父親の高藤に始まる藤原氏の門流の一つで、後に勧修寺家と呼ばれる一門流の氏長者のこととみたほうがよかろう。勧修寺は、この高藤流の一門が氏寺としたことから、寺名が門流名となったのである。

具体的な創建当初の堂塔の状況については、『勧修寺旧記』にのせられている程度で、あまり詳しくはわからない。具体的には、御願堂・御塔・本堂などの名前が見える。この堂塔の中で、多宝塔については若干の誤解があるようである。『國史大辭典』では天暦元(947)年に斎宮柔子内親王によって造立されたとあるが、『勧修寺旧記』には承平3(933)年の「済高律師実録帳」という史料を引用して、「有塔无佛并柱繪」と書かれているので、すでにこの段階で多宝塔は完成していたことになる。しかし、続いて天暦元年の斎宮柔子内親王の供養のことが見えているため、このときの造立と誤られたようである。しかし、塔は「済高律師実録帳」の記述によって、すでに承平年間には完成していたが、仏像などの設備が整っていなかったようで、柔子内親王の供養によって塔として機能されるようになったと見たほうがよかろう。

その他、子院として灌頂堂や薬師堂などの建物が見える。灌頂堂は、醍醐天皇の御願であり、薬師堂の方は一条天皇の御願である。また、寛弘4年のこの薬師堂の落慶法要のときには藤原頼通もわざわざ列席のため、勧修寺に来ている。このことからすれば、勧修寺は天皇や摂関家も尊崇を集める寺院であったことがわかる。

寺領については、『勧修寺文書』の中の「保元三(1158)年山城国勧修寺領田畠検注帳案」に詳しい。

付表　寺領一覧表(『國史大辭典』をもとに加筆)

番号	所在国郡	名称	成立年次
1	山城国宇治郡	勧修寺辺田園	
2	山城国宇治郡	小野郷	
3	山城国宇治郡	山科郷	
4	山城国宇治郡	安祥寺	
5	山城国久世郡	巨倉荘	建武3年以前
6	山城国？郡	願興寺	
7	大和国葛下郡	大畠寺	建武3年以前
8	河内国？郡	貞法寺	
9	伊賀国阿拝郷	新居荘	建武3年以前
10	尾張国海部郡	甚目寺	
11	三河国碧海郡	重原荘	建武3年以前
12	甲斐国巨麻郡	加加美荘	建武3年以前
13	武蔵国橘樹郡	河崎荘	建武3年以前
14	近江国犬上郡	清水本荘	建武3年以前
15	美濃国土岐郡	小築・釜戸両郷	建武3年以前
16	加賀国江沼郡	郡家荘	建武3年以前
17	越中国射水郡	浅井弘上	建武3年以前
18	美作国苫西郡	西香香美荘	元弘3年以前
19	備前国上道郡	金岡荘内西大寺	
20	淡路国津名郡	塩田荘	建武3年以前

この中心となる所領は、勧修寺周辺の254町の田畠であるが、時期が下るとともに、寄進や買得田が増えていき、付表のような寺領となった。

このように中世に入って隆盛を極めた勧修寺も、室町時代後半の応仁の乱以後になると、所領が散逸し、勧修寺の境内も次第に荒れるようになった。平岡定海氏の解説によれば、太閤検地以後は、鎮守八幡宮領の宇治郡十一郷及び安祥寺周辺の山科七郷に限られるようになったという。

ところで、勧修寺の境内の発掘調査であるが、本格的な調査は実施されてはいない。しかし、1981年と1984年の二度にわたって立会調査などが行われた。その結果、勧修寺と直接関係するような遺構は検出されなかったが、勧修寺下層遺構として、古墳時代から奈良時代にかけての竪穴式住居跡や柱穴、土坑などが見つかっている。遺物の面では、下層遺構に伴う時期の土師器・須恵器以外に、勧修寺の時期に相当する灰釉陶器や瓦器のほか、輸入陶磁器類も出土している。

このように、勧修寺に関連する遺構の検出は将来に委ねられることになったが、寺院としても著名であるばかりでなく、現在にまで繋がる寺院、遺跡として今後も注目されていくことであろう。

（土橋　誠）

＜参考文献＞

橋本義彦「勧修寺流藤原氏の形成とその性格－古代末期中流貴族の一典型として－」（『日本古代史論集』下巻　吉川弘文館）1962

平岡定海「定額寺考」（『大手前女子大学論集』第1号　大手前女子大学）1967

鳥居治夫「山城国葛野郡班田図と檀林寺」（『近江』1-2　近江考古学研究会）1973

『國史大辞典』　吉川弘文館

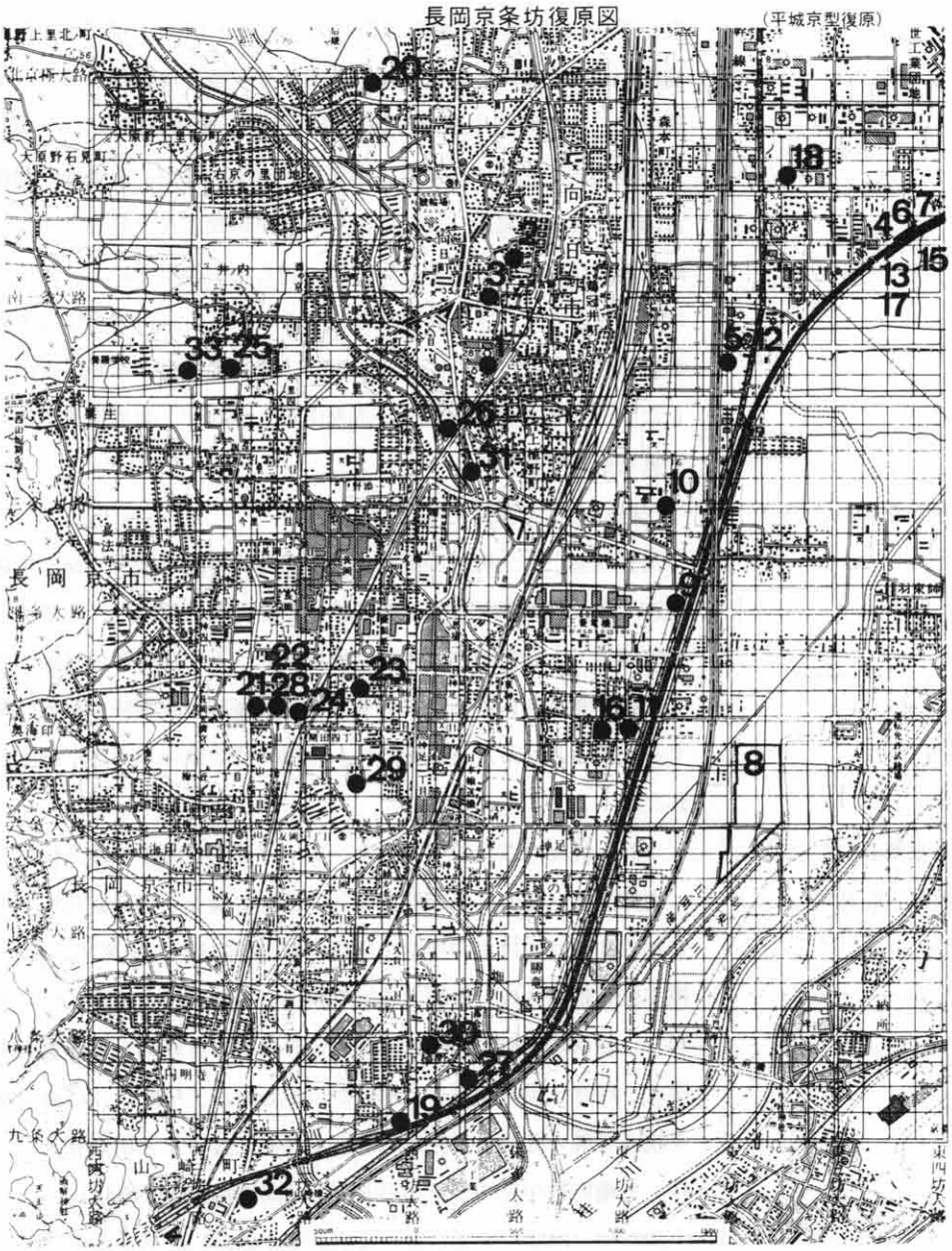
『京都市の地名』　平凡社

長岡京跡調査だより・47

平成５年８月25日・９月22日・10月27日に開催された長岡京連絡協議会で報告のあった発掘調査は、宮内３件、左京域15件、右京域13件、京外その他５件の計36件であった(一覧表・位置図参照)。このうち、主なものについて調査成果を簡単に紹介する。

調査地一覧表　(1993年10月末現在)

番号	次　数	地区名	調　査　地	調査機関	調査期間
1	宮内280次	7ANFOC	向日市上植野町御塔道	(財)向日市埋文	8/11～8/31
2	宮内281次	7ANEAC	向日市鶏冠井町82-2	(財)向日市埋文	8/30～9/3
3	宮内282次	7ANEDN-1	向日市鶏冠井町大極殿	(財)向日市埋文	10/4～11/19
4	左京286次	7ANWSA-2	京都市伏見区久我本町	(財)京都府埋文	4/7～
5	左京301次	7ANESH-10	向日市鶏冠井町沢ノ東	(財)向日市埋文	4/2～7/31
6	左京303次	7ANVKN	京都市南区久世東土川	(財)京都府埋文	6/22～
7	左京304次	7ANVNR	京都市南区久世東土川	(財)京都府埋文	5/7～
8	左京306次	7ANYOB-1	京都市伏見区淀橋爪町	(財)京都市埋文	4/1～
9	左京308次	7ANFHD-6	向日市上植野町菱田	(財)向日市埋文	6/2～9/14
10	左京310次	7ANFMR-2	向日市上植野町持丸9	(財)向日市埋文	9/6～10/5
11	左京311次	7ANMMO-3	長岡京市神足麦生4	(財)長岡京市埋文	8/5～9/3
12	左京312次	7ANESH-11	向日市鶏冠井町沢ノ東	(財)向日市埋文	8/1～8/25
13	左京313次	7ANWSA-3	京都市伏見区久我本町	(財)京都府埋文	7/26～
14	左京314次	7ANWSS-4	京都市伏見区久我西出	(財)京都府埋文	8/2～
15	左京315次	7ANWST	京都市伏見区久我西出	(財)京都府埋文	9/6～
16	左京316次	7ANMMO-4	長岡京市神足麦生4-5	(財)長岡京市埋文	9/6～10/5
17	左京317次	7ANWSG	京都市伏見区久我本町	(財)京都府埋文	10/25～
18	左京318次	7ANVHR-2	京都市南区東土川町	(財)京都市埋文	10/21～
19	右京428次	7ANTTD-4	大山崎町下植野寺門	(財)京都府埋文	10/18～
20	右京437次	7ANBNO-3	向日市寺戸町西野23	(財)向日市埋文	6/2～8/13
21	右京440次	7ANKNZ-4	長岡京市天神一丁目	(財)京都府埋文	7/26～
22	右京441次	7ANKNZ-5	長岡京市天神一丁目15	(財)長岡京市埋文	8/2～10/2
23	右京442次	7ANKTR-5	長岡京市開田三丁目	(財)長岡京市埋文	8/16～10/30
24	右京443次	7ANKSC-5	長岡京市天神一丁目	(財)長岡京市埋文	8/23～9/28
25	右京444次	7ANGSW-4	長岡京市井ノ内坂川	(財)長岡京市埋文	9/6～10/5
26	右京445次	7ANFSR-1	向日市上植野町下川原	(財)向日市埋文	9/22～10/20
27	右京446次	7ANTSR	大山崎町下植野菖蒲原	大山崎町教委	9/26～10/4
28	右京447次	7ANKNZ-6	長岡京市天神一丁目	長岡京市教委	10/1～10/31
29	右京448次	7ANMSI-13	長岡京市開田四丁目	長岡京市教委	10/14～11/13
30	右京449次	7ANTDK	大山崎町下植野代理分	大山崎町教委	10/13～11/19
31	右京450次	7ANFSR-2	向日市上植野町下川原	(財)向日市埋文	10/19～11/22
32	第18次遺跡確認調査		大山崎町円明寺夏目	大山崎町教委	1/18～10/8
33	井ノ内稲荷塚古墳		長岡京市井ノ内小西	大阪大学文学部	7/14～8/10
34	南条古墳群第２次		向日市物集女長野40	(財)向日市埋文	7/21～8/13
35	第19次遺跡確認調査		大山崎町大山崎白味才	大山崎町教委	7/22～9/20
36	山城国府跡第30次		大山崎町山崎西谷21-1	(財)京都府埋文	10/20～



▽番号は一覧表・本文（）内と対応

調査地位置図

左京第306次（８）

（財）京都市埋蔵文化財研究所

左京六条三坊一・二・七・八町域(旧条坊呼称)の調査。東三坊第一小路(新：東三坊坊間西小路)と六条第一小路(新：六条条間南小路)の交差点及び掘立柱建物跡・井戸・畑跡(小溝群)等の宅地跡の一部を検出。長岡京期の遺構の分布密度は希薄である。下層では、古墳時代中期から後期の大規模な集落跡がみつかった。方形竪穴式住居跡56基以上、掘立柱建物跡14棟が、調査地の北西方向から流れる幅10～15mの二条の河川に挟まれた部分と左岸の微高地上に広がる。方形住居跡は一辺５m前後が平均で、炉または竈・貯蔵穴・ベット状遺構をもつものがある。河川内には水量調節用の堰が設けられ、農具・容器・建物部材等の木製品が出土した。これまで確認されている水田跡と合わせ、集落構造を知る貴重な資料である。

左京第308次（９）

（財）向日市埋蔵文化財センター

左京五条二坊十町域の調査。東二坊坊間小路東側溝・掘立柱建物跡３棟・遺物埋納遺構２基を検出した。埋納遺構は、土師器杯と漆器類、土師器椀類と神功開寶等のセットが建物跡の柱抜き取り穴内に意識的に配されており、建物解体時か改築時の祭祀に関するものとされる。下層からは、古墳時代前期の水田跡が確認された。

右京第441次（22）・第447次（28）

（財）長岡京市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会

右京五条三坊四町及び開田城ノ内遺跡の調査。長岡京期から平安時代初期にかけての鋳造工房跡(鋳造炉跡11基、炭焼窯２基)・掘立柱建物跡３棟・柵列２条等を検出。鋳造炉は半地下式の竪形炉で、谷状地形の上肩部に集中して存在する。周囲から多量の炉壁片・鉄滓・炭やフイゴの羽口が出土した。工房跡は、坊間小路を挟んで隣の町域まで広がることが判明している。同調査区からは、古墳時代中期の竪穴式住居跡５基が検出され(第441次)、内１基から、内部が中空になった水鳥形土製品の頭部が出土した。

（辻本和美）

備考：条坊名称は、特にことわらないものはすべて新条坊呼称による。

センターの動向（5．8～10）

1．できごと

8．1　長岡京発掘調査1000回記念講演会(別掲)

2　七百石遺跡(綾部市)発掘調査開始

5　瓦谷遺跡(木津町)発掘調査開始

6　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議(於:和歌山市)出席(中谷次長、安藤課長、安田課長補佐、)

左坂横穴群(大宮町)現地説明会

9　松井古墳状隆起(田辺町)発掘調査開始

14　第11回小さな展覧会「京都発掘'93」開会(～29)

19　女布北遺跡(久美浜町)発掘調査開始

20　遠所古墳群(網野町)発掘調査開始

21　梅谷瓦窯跡(木津町)現地説明会

23～24　城戸事務局長、上野古墳群(丹後町)他、現地視察

25　長岡京連絡協議会

26　八木城跡・堂山窯跡(八木町)現地説明会

27　理事協議会(於：当センター)福山敏男理事長、樋口隆康副理事長、城戸秀夫常務理事、中澤圭二、川上　貢、足利健亮、都出比呂志、堤　圭三郎の各理事出席

30　王　文清陝西省文物管理事業局長ほか当センター訪問

9．2～3　中澤圭二理事、上野古墳群ほか現地視察

2　上人ヶ平埴輪窯跡(木津町)発掘調査開始

3　沢ノ谷古墳(八木町)関係者説明会

7　都出比呂志理事、上野古墳群ほか現地視察

堀坂神社古墳(久美浜町)関係者説明会

8　平安京跡(京都市・西別館)関係者説明会

堀坂神社古墳発掘調査終了(7.13～)

9　足利健亮理事、梅谷瓦窯跡現地視察

10　白米山北古墳(加悦町)現地説明会、発掘調査終了(7.20～)

沢ノ谷古墳発掘調査終了(7.19～)

14　松井古墳状隆起発掘調査終了(8.9～)

22　植物園北遺跡(京都市)現地説明会

長岡京連絡協議会

24　八木城跡・堂山窯跡発掘調査終了(4.7～)

26　平成5年度文化財保護講座(教育局別)開催(於：宇治市平等院ほか)

村田調査員出席

28　全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピューター委員会(於:京都市)出席(中谷次長、村田調査員)

28～10.1　一般職員研修1(於:府職員研修所)出席(石崎・岸岡調査員)

29　藤井　学理事、八木城跡現地視察

ジンド古墳(綾部市)現地説明会

30　職員研修－写真撮影について－講師：田中　彰調査員

10. 4　伏見城跡(京都市)発掘調査開始

6　上田正昭理事、梅谷瓦窯跡現地視察

7　池尻遺跡(亀岡市)発掘調査開始

8　植物園北遺跡発掘調査終了(7.6～)

14　ジンド古墳発掘調査終了(5.12～)

15　川上　頁理事、八木城跡現地視察

16～17　日本考古学協会総会(於：新潟市)出席(石崎、柴、河野調査員)

18～19　樋口隆康副理事長、上野古墳群ほか現地視察

18　大島東遺跡(綾部市)発掘調査開始

20　山根古墳(舞鶴市)現地説明会

山城国府跡(大山崎町)発掘調査開始

21～22　全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(於：ルビノ京都堀川)講演：足利健亮理事「信長・秀吉・家康の城と城下町」担当法人(当センター)城戸局長、佐伯次長、安藤課長、安田課長補佐、平良課長補佐ほか出席

22　山根古墳発掘調査終了(7.9～)

27　長岡京連絡協議会

2．普及啓発事業

8. 1　長岡京発掘調査1000回記念講演会(於:向日市民会館)　中山修一「開会にあたって」、山中　章「長岡京発掘調査の歴史」、黄　暁芬「中国の都城・日本の都城」、朧谷　寿「冷泉家の成立－俊成・定家にふれて－」、足利健亮「総括と展望」

14～29　第11回小さな展覧会「京都発掘'93」(於:向日市文化資料館)

(安藤信策)

府内報告書等刊行状況一覧（92.11～93.10）

発掘調査報告書

『埋蔵文化財発掘調査概報』　1993　京都府教育委員会　1993.3

『重要文化財　仁和寺鐘楼・経蔵・遼廓亭修理工事報告書』　同上　1993.3

『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』　第11冊　(財)京都市埋蔵文化財研究所　1992.6

『京都市内遺跡試掘調査概報　平成４年度』　京都市文化観光局　1993.3

『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報　平成４年度』　同上　1993.3

『平安京跡発掘調査概報　平成４年度』　同上　1993.3

『京都市内遺跡立会調査概報　平成４年度』　同上　1993.3

『岩倉古窯跡群』　京都大学考古学研究会　1992.9

『向日市埋蔵文化財調査報告書』　第36集　(財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会　1993.3

『長岡京市文化財調査報告書』　第31冊　長岡京市教育委員会　1993.3

『平等院　庭園発掘調査概要報告』　宗教法人平等院　1992.12

『宇治市埋蔵文化財発掘調査概報』　第20集　宇治市教育委員会　1993.3

『城陽市埋蔵文化財調査報告書』　第23集　城陽市教育委員会　1993.3

『城陽市埋蔵文化財調査報告書』　第24集　同上　1993.3

『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』　第12集　八幡市教育委員会　1993.3

『木津町埋蔵文化財調査報告書』　第９集　木津町教育委員会　1992.3

『木津町埋蔵文化財調査報告書』　第10集　同上　1993.3

『京都府山城町埋蔵文化財調査報告書』　第11集　山城町教育委員会　1993.3

『京都府京北町埋蔵文化財発掘調査報告書』　第３集　京北町教育委員会　1992.6

『福知山市文化財調査報告書』　第21集　福知山市教育委員会　1993.3

『福知山市文化財調査報告書』　第22集　同上　1993.3

『加悦町文化財調査報告』　第15集　加悦町教育委員会　1992.3

『加悦町文化財調査報告』　第18集　同上　1992.11

『京都府網野町文化財調査報告』　第７集　網野町教育委員会　1993.3

『京都府網野町文化財調査報告』　第８集　同上　1993.3

当調査研究センター現地説明会・中間報告資料

現地説明会

「里ヶ谷横穴群」　（京埋セ現地説明会資料　No.92-12）　1992.11.13

「内里八丁遺跡」　（同　No.92-13）　1992.11.20

「下岡古墳」　（同　No.92-14）　1992.12.4

「神宮谷古墳群」（同　No.93-01）　1993.1.12

「瓦谷古墳群・瓦谷遺跡」（同　No.93-02）　1993.1.22

「平安京跡・旧二条城跡」（同　No.93-03）　1993.6.17

「若林遺跡第２次」　（同　No.93-04）　1993.6.24

「溝谷古墳群」　（同　No.93-05）　1993.7.23

「いななきの岡遺跡」　（同　No.93-06）　1993.7.29

「左坂横穴群」　（同　No.93-07）　1993.8.3

「梅谷瓦窯跡」　（同　No.93-08）　1993.8.21

「八木城跡第３次・堂山窯跡」　（同　No.93-09）　1993.8.26

「白米山北古墳」　（同　No.93-10）　1993.9.10

「植物園北遺跡」　（同　No.93-11）　1993.9.22

「ジンド古墳」　（同　No.93-12）　1993.9.29

「山根古墳」　（同　No.93-13）　1993.10.20

中間報告

「平安京跡右京七条三坊二町」　（京埋セ中間報告資料　No.92-10）　1992.11.10

「長岡京跡右京第411次」　（同　No.92-11）　1992.11.10

「鹿谷遺跡」　（同　No.92-12）　1992.11.13

「長岡京跡右京第395次(下植野南遺跡)」　（同　No.92-13）　1992.12.17

「荒坂遺跡」　（同　No.93-01）　1993.2.12

「桜内遺跡」　（同　No.93-02）　1993.2.9

「植物園北遺跡」　（同　No.93-03）　1993.2.8

「長岡京跡右京第395次(下植野南遺跡)」　（同　No.93-04）　1993.2.9

「平安京跡・旧二条城跡」　（同　No.93-05）　1993.2.18

「神宮谷古墳群」　（同　No.93-06）　1993.5.14

「燈籠寺遺跡第７次」　（同　No.93-07）　1993.5.26

「桜遺跡」　（同　No.93-08）　1993.7.9

「今林古墳」　(同　No.93-09)　1993.7.15

「沢ノ谷遺跡」　(同　No.93-11)　1993.9.3

「堀坂神社古墳」　(同　No.93-10)　1993.9.7

「平安京左京一条二坊十四町」　(同　No.93-12)　1993.9.8

府内現地説明会資料

「平成4年度恭仁宮跡」　京都府教育委員会　1993.1.24

「稲荷塚古墳」　長岡京市教育委員会　1993.8.7

「恵美塚古墳」　城陽市教育委員会　1992.11.7

「光明山寺跡」　山城町教育委員会　1993.1.23

「西中筋東部地区遺跡群(興・観音寺遺跡)」　福知山市教育委員会　1993.10.8

その他の雑誌・報告・論文等

『京都府埋蔵文化財情報』　第46号　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター　1992.12

『京都府埋蔵文化財情報』　第47号　同上　1993.3

『京都府埋蔵文化財情報』　第48号　同上　1993.6

『京都府埋蔵文化財情報』　第49号　同上　1993.9

『京都府遺跡調査概報』　第51冊　同上　1992.12

『京都府遺跡調査概報』　第52冊　同上　1993.3

『京都府遺跡調査概報』　第53冊　同上　1993.3

『京都府遺跡調査概報』　第54冊　同上　1993.3

『京都府遺跡調査報告書』　第18冊　同上　1993.3

『京都府指定・登録文化財等目録』　京都府教育委員会　1992.11

『京都の歴史　山城編』　同上　1992.3

『京都府　国指定文化財総合目録』　同上　1993.3

『京都の文化財』　第11集　同上　1993.8

『文化財保護』　No.10　同上　1992.10

『文化財報』　No.79～82　(財)京都府文化財保護基金　1992.11～1993.8

『会報』　第75号　(財)京都古文化保存協会　1993.10

『資料館紀要』　第21号　京都府立総合資料館　1993.3

『京都府資料目録追録』　No. 9　同上　1993.9

『総合資料館だより』　No.94～97　同上　1992.12～1993.10

『京都市の文化財－建造物・文化財環境保全地区－』　京都市文化観光局　1992.11

『京都市の文化財－美術工芸品－』　同上　1992.11

『京都市の文化財－記念物－』　同上　1992.11

『京都市の文化財－民俗文化財－』　同上　1992.11

『京都市文化財だより』　第19・20号　同上　1993.6～1993.10

『朱雀』　第５集　京都文化博物館　1992.12

『創建1000年記念　壬生寺展』　同上　1992.11

『京都文化博物館開館３周年記念特別展』　同上　1991.10

『京都市歴史資料館紀要』　第10号　京都市歴史資料館　1992.11

『企画展　京都市の文化財』　同上　1993.5

『第４回特別展　建都1100年の京都』　同上　1993.10

『京都市史編さん通信』　No.238～248　同上　1992.11～1993.10

『京都市考古資料館文化財講座資料』　第62～68回　京都市考古資料館　1993.3～1993.10

『平成３年度　京都国立博物館年報』　京都国立博物館　1993.3

『芸術文化研究所研究紀要』　1　京都芸術短期大学芸術文化研究所　1992.3

『'92同志社大学公開講座　考古学に歴史を読む』　同志社大学　1992.9

『鷹陵史学』　第18号　佛教大学史学科研究室　1992.3

『仏教大学総合研究所報』　第３・４号　仏教大学総合研究所　1992.11～1993.5

『紫金山古墳と石山古墳』　京都大学文学部図書館　1993.4

『京都橘女子大学研究紀要』　第19号　京都橘女子大学　1992.12

『開学120周年記念「キャンパス」を掘る』　花園大学文学部　1993.3

『(財)向日市埋蔵文化財センター　年報　都城４』　(財)向日市埋蔵文化財センター　1992.11

『向日市文化資料館報』　第８号　向日市文化資料館　1992.12

『向日市古文書調査報告書』　第二集　同上　1992.3

『第９回特別展示図録』　同上　1993.10

『長岡京市埋蔵文化財センター年報　平成３年度』　(財)長岡京市埋蔵文化財センター　1993.3

『山城郷土資料館報』　第10号　京都府立山城郷土資料館　1992.5

『企画展　城州一心講とオンマカブロー村のくらしと風呂』　同上　1993.4

『開館十周年記念特別展　宮座とまつり』　同上　1992.10

『企画展資料』　同上　1993.9

『特別展展示図録』　13　同上　1993.10

『山城郷土資料館だより』　第18・19号　同上　1993.4～1993.10

『第１回　京都府埋蔵文化財研究会資料』　山城地方社会教育研究協議会文化財専門部会　1993.9

『宇治茶の文化史』　宇治市教育委員会　1993.3

『大名と茶師』　宇治市歴史資料館　1993.10

『文愛協会報』　第33・34号　(財)宇治市文化財愛護協会　1993.6～1993.9

『市制15周年記念　八幡』　八幡市　1992.11

『企画展やわたの昔、みて、ふれて』　八幡市教育委員会　1992.11

『一條家領鹿背山焼　附・近世銅版染付史』　山城ライオンズクラブ　1993.2

『波布理曽能』　第10号　精華町の自然と歴史を学ぶ会　1993.5

『紫陽花』　第15・16号　加茂町　1992.11～1993.9

『茅葺村歴史の里　写真集』　美山町　1993.3

『丹波史談』　平成４－特・史　口丹波史談会　1993.1

『第８回特別展示会図録』　亀岡市文化資料館　1992.11

『亀岡市文化資料館報』　創刊号　同上　1993.3

『第15回企画展展示会図録』　同上　1993.5

『第16回企画展展示会図録』　同上　1993.7

『第１回特別展示　木簡の旅』　綾部市資料館　1993

『綾部の文化財』　第36・37号　綾部の文化財を守る会　1993.4～1993.8

『福知山市文化財情報』　創刊・２号　福知山市　1992.7～1992.10

『史談ふくち山』　第490～495号　福知山史談会　1993.1～1993.6

『第四回福知山城薪能』　福知山城薪能実行委員会　1993

『第１回加悦町古墳シンポジウム　蛭子山古墳の時代』　加悦町教育委員会　1993

『舞鶴市史　通史編』(上)　舞鶴市役所　1993.3

『特別陳列図録』　31　京都府立丹後郷土資料館　1993.4

『特別陳列図録』　32　同上　1993.7

『特別展図録』　24　同上　1993.10

『丹後郷土資料館だより』　第25・26号　同上　1993.3～1993.9

『歴史シンポジューム　古代製鉄と日本海文化』　弥栄町役場　1993.3

『市史編さんだより』　第６号　宮津市教育委員会　1993.10

『図書目録』　宮津市立前尾記念文庫　1992.3

『古代文化』　第406～417号　(財)古代學協會　1992.11～1993.10

『古代學研究所研究紀要』　第３輯　同上　1993.3

『土車』　第64・65号　同上　1992.10～1993.7

『泉屋博古館紀要』　第９巻　(財)泉屋博古館　1993.3

『(財)平安建都1200年記念協会ニュース』　No.30　(財)平安建都1200年記念協会　1993.4

『志くれてい』　第43～46号　(財)冷泉家時雨亭文庫　1993.1～1993.10

『史迹と美術』　第629～638号　史迹美術同攷会　1992.11～1993.9

『京都考古』　第72号　京都考古刊行会　1993.8

『洛東探訪　山科の歴史と文化』　(株)淡交社　1992.10

『仏教考古學論攷』　１～６　思文閣出版　1977.4～1978.2

『濱田耕作著作集』　第六巻　(株)同朋舎出版　1993.2

受贈図書一覧（5．8～10）

釧路市埋蔵文化財調査センター	釧路市北斗遺跡Ⅲ －史跡北斗遺跡保存整備事業に伴う発掘調査報告書－、釧路市 北斗遺跡第１地点調査報告書
(財)いわき市教育文化事業団	いわき市埋蔵文化財調査報告 第33冊 久世原館・番匠地遺跡 第Ⅰ篇、いわき市埋蔵文化財調査報告 第33冊 久世原館・番匠地遺跡 第Ⅱ篇、いわき市埋蔵文化財調査報告 第33冊 久世原館・番匠地遺跡 第Ⅲ篇、いわき市埋蔵文化財調査報告 第33冊 久世原館・番匠地遺跡 第Ⅳ篇
(財)郡山市埋蔵文化財調査事業団	(財)郡山市埋蔵文化財調査事業団設立10周年記念 安積野のパイオニアたち －郡山の文化財 ふるさと歴史展－
(財)茨城県教育財団	茨城県教育財団文化財調査報告第78集 主要地方道茨城鹿島線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 梶山城跡、茨城県教育財団文化財調査報告第79集 一般国道６号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ、茨城県教育財団文化財調査報告第80集 土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 原田北遺跡Ⅰ 原田西遺跡(上)、茨城県教育財団文化財調査報告第80集 土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 原田北遺跡Ⅰ 原田西遺跡(下)、茨城県教育財団文化財調査報告第81集 牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) ヤツノ上遺跡、茨城県教育財団文化財調査報告第82集 (仮称)水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書 白石遺跡、茨城県教育財団文化財調査報告第83集 茨城県自然博物館(仮称)建設予定地内埋蔵文化財調査報告書 原口遺跡 北前遺跡、年報12＜平成４年度＞、研究ノート２号 平成４年度
財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	内匠上之宿遺跡 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第146集 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 多胡蛇黒遺跡《本文編》、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第146集 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 多胡蛇黒遺跡《図版編》、矢田遺跡Ⅳ 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第17集、南蛇井増光寺遺跡Ⅱ

	(本文編)　関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集、南蛇井増光寺遺跡Ⅱ(写真図版編)　関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集、上戸塚正上寺遺跡　一級河川中川小規模河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、新保田中村前遺跡Ⅲ《本文編》　一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第３分冊、新保田中村前遺跡Ⅲ《遺物観察表編》　一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第３分冊、白井大宮遺跡　群馬県企画局貯水池関係発掘調査報告書、神保富士塚遺跡(本文編)　関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集、神保富士塚遺跡(写真図版編)　関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集、元総社寺田遺跡《遺構・遺物編》　一級河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集
(財)印旛郡市文化財センター	千葉県成田市　野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平植出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上台遺跡、千葉県成田市　西向野Ⅰ遺跡　西向野Ⅱ遺跡、千葉県成田市　駒井野荒追遺跡　マロウドインターナショナル成田建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書、千葉県成田市　西向野Ⅰ遺跡(第２地点)　－成田市石原貸店舗造成予定地内埋蔵文化財調査－、千葉県成田市　土室林第一遺跡発掘調査報告書、千葉県印旛郡印旛村　トヶ前遺跡　－印旛村泉カントリー倶楽部コース造成事業地内埋蔵文化財調査(１)－、千葉県四街道市　西山No.３遺跡発掘調査報告書、平成３年度　(財)印旛郡市文化財センター年報８、遺跡から見た印旛の歴史
(財)東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	多摩の遺跡展　発掘物語　in　ＴＡＭＡ
(財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター	調査研究集録　第９冊、港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告ＸⅣ　牛ヶ谷遺跡　華蔵台南遺跡、稲ヶ原遺跡Ａ地点発掘調査報告　－横浜市立さつきが丘小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告－、坂下谷遺跡発掘調査報告　－保土ヶ谷バイパス(横浜I.C.関連)改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－、(財)横浜市ふるさと歴史財団　埋蔵文化財センター　年報３

山梨県埋蔵文化財センター	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第74集　山梨県指定史跡 甲府城跡Ⅱ
(財)長野県埋蔵文化財センター	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11　－明科町内－　北村遺跡　本文編、中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11　－明科町内－　北村遺跡　図版編、長野県埋蔵文化財センター年報９　1992
富山県埋蔵文化財センター	富山県埋蔵文化財包蔵地地図
(財)富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	埋蔵文化財年報(４)　－平成４年度－、能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告　－小矢部市～福岡町間－
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター年報－７－　平成３年度
(財)浜松市文化協会	佐鳴湖西岸遺跡群　本文編Ⅰ、佐鳴湖西岸遺跡群　本文編Ⅱ、佐鳴湖西岸遺跡群　写真図版編Ⅰ(大平遺跡)、佐鳴湖西岸遺跡群　写真図版編Ⅱ
(財)愛知県埋蔵文化財センター	年報　平成４年度、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第33集　朝日遺跡Ⅳ、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第43集　岡島遺跡Ⅱ・不馬入遺跡、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第45集　山中遺跡Ⅱ、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第46集　伊保遺跡　根川３号墳　坂口遺跡　高樋遺跡、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第47集　三斗目・三本松遺跡
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	平成４年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報
豊橋市埋蔵文化財調査事務所	豊橋市埋蔵文化財調査報告書第15集　白石遺跡、豊橋市埋蔵文化財調査報告書第16集　上寒之谷１号墳、豊橋市埋蔵文化財調査報告書第17集　古墳測量調査(Ⅰ)
(財)滋賀県文化財保護協会	紀要　第６号、第４回埋蔵文化財調査研究会　シンポジウム『“鐵冶かず”近江の古代－木瓜原遺跡の評価をめぐって－』－発表要旨－、－平成４年度調査埋蔵文化財展－レトロ・レトロの展覧会
(財)大阪府埋蔵文化財協会	(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第63輯　石才南遺跡Ⅱ・清児遺跡Ⅱ　都市計画道路貝塚中央線建設に伴う発掘調査報告書、(財)大阪府埋蔵文化財協会　第70輯　軽部池西遺跡Ⅲ　都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書、(財)大阪府埋蔵文化財協会　第72輯　陶邑・伏尾遺跡Ⅱ　Ａ地区　近畿自動車道松原海南線建設に伴う発掘調査報告書、(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第

	73輯　吉井遺跡　府営岸和田春木第２期住宅(建て替え)建設工事に伴う発掘調査報告書、(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第74輯　兵主廃寺　二級河川春木川改修工事に伴う発掘調査報告書
奈良国立文化財研究所	飛鳥・藤原宮発掘調査概報　23、西隆寺発掘調査報告書　奈良国立文化財研究所40周年記念学報　第52冊、平城京左京三条一坊七坪発掘調査報告、奈良国立文化財研究所史料第37冊　梵鐘実測図集成　上、奈良国立文化財研究所史料第38冊　梵鐘実測図集成　下
倉敷埋蔵文化財センター	倉敷市埋蔵文化財調査年報２　－1992年度－
(財)徳島県埋蔵文化財センター	徳島県埋蔵文化財センター年報　Vol.４　－平成４年(1992)度－、矢野銅鐸
福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報　第12号　平成４(1992)年度
(財)北九州市教育文化事業団　埋蔵文化財調査室	北九州市埋蔵文化財調査報告書第112集　徳力土地区画整理事業関係調査報告５　上徳力遺跡第18・19・20地点、北九州市埋蔵文化財調査報告書第113集　徳力遺跡(下)　－都市モノレール小倉線及び国道322号線築造工事に伴う発掘調査－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第114集　徳力土地区画整理事業関係調査報告６　守恒遺跡第８地点、北九州市埋蔵文化財調査報告書第117集　上清水遺跡Ｖ区(奈良時代以降編)－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告28－　本文編、北九州市埋蔵文化財調査報告書第117集　上清水遺跡Ｖ区(奈良時代以降編)－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告28－　図版編、北九州市埋蔵文化財調査報告書第118集　尾崎遺跡　－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告29－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第119集　大迫遺跡　－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告30－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第122集　金山遺跡Ⅱ区　－都市計画道路横代28号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告１－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第124集　京町遺跡１　Ⅱ－１区、北九州市埋蔵文化財調査報告書第129集　高津尾遺跡６区(18区の調査)－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告31－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第131集　カキ遺跡(縄文時代編)－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告33－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第132集　カキ遺跡(古墳時代編)－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告

	34－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第133集 大手町遺跡、北九州市埋蔵文化財調査報告書第134集 黒崎貝塚、北九州市埋蔵文化財調査報告書第135集 中伏遺跡２ －金山川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告２－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第136集 中畑南遺跡第３地点、北九州市埋蔵文化財調査報告書第137集 長野・早田遺跡第１地点、北九州市埋蔵文化財調査報告書第138集 長野・早田遺跡第３地点、北九州市埋蔵文化財調査報告書第139集 貫川遺跡７ －貫川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告６－、北九州市埋蔵文化財調査報告書第140集 石田・原遺跡(第３・４地点の調査)、埋蔵文化財調査室年報９ 平成３年度、研究紀要 －第７号－
深川市教育委員会	深川市 内園峠遺跡 一般国道12号内大部道路改良工事に伴う発掘調査報告書 Ⅲ
訓子府町教育委員会	豊坂－21遺跡 －北海道常呂郡訓子府町豊坂－21遺跡発掘調査報告書－
岩手県教育委員会事務局	岩手県文化財調査報告第93集 岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成４年度)
富士見市教育委員会	富士見市文化財報告第43集 富士見市内遺跡Ⅰ、ふるさとの考古学 富士見市の遺跡 よみがえる文化と歴史、富士見市遺跡調査会調査報告 第39集 谷津遺跡第16地点発掘調査報告書
袖ヶ浦市教育委員会	袖ヶ浦市史研究－創刊号
東京都文京区教育委員会	春日町遺跡 発掘調査概報、文京区埋蔵文化財調査報告書第１集 春日町遺跡Ⅰ、文京区埋蔵文化財調査報告書第２集 本富士町遺跡、文京区埋蔵文化財調査報告書第３集 上富士前町遺跡
東京都北区教育委員会	中里遺跡 東日本旅客鉄道株式会社東京地域本社ビル地点、西ヶ原遺跡群 地下鉄７号線西ヶ原駅(仮称)地区の調査 本文・表題、西ヶ原遺跡群 地下鉄７号線西ヶ原駅(仮称)の調査 挿図編 写真図版編
板橋区教育委員会	沖山遺跡 板橋区都立赤塚公園内遺跡範囲確認調査報告
川崎市教育委員会	川崎市文化財調査集録 第28集
海老名市教育委員会	相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書 Ⅲ
境川村教育委員会	境川村埋蔵文化財発掘調査報告書 第８輯 立石南遺跡

新井市教育委員会	平成４年度　新井市遺跡確認調査報告書　杉明遺跡　姫川原地区　猿橋城跡　宮ノ本遺跡
氷見市教育委員会	平成３・４年度　氷見市寺社調査報告書　浄土真宗本願寺派の部
婦中町教育委員会	富山県婦中町　小倉中稲Ⅱ遺跡　－県営農地流動化特別促進ほ場整備実験事業に伴う発掘調査－、富山県婦中町　小倉中稲遺跡発掘調査報告、国指定史跡　安田城跡
小松市教育委員会	二ッ梨豆岡向山古窯跡　昭和58年度果樹園平地化事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、矢田野エジリ古墳　発掘調査報告書
武生市教育委員会	武生市埋蔵文化財調査報告15　王子保窯跡群Ⅴ
菊川町教育委員会	高田大屋敷遺跡　第８次発掘調査報告書(排水路北部)
津市教育委員会	津市埋蔵文化財調査報告　23　六大Ｂ遺跡発掘調査報告、三重産業振興センター　埋蔵文化財調査概報　蔵田遺跡・平田遺跡・位田東遺跡
鈴鹿市教育委員会	鈴鹿市埋蔵文化財調査報告12　上箕田遺跡
松阪市教育委員会	松阪市殿町　三重県指定史跡　松坂城本丸跡上段発掘調査報告書
長浜市教育委員会	長浜市埋蔵文化財調査資料　第７集　堀部西遺跡・八田切遺跡発掘調査報告書
能登川町教育委員会	能登川町埋蔵文化財調査報告書　第26集　中沢遺跡(第８次)・法堂寺遺跡(第２次)、能登川町埋蔵文化財調査報告書　第27集　斗西遺跡(２次調査)　－本文編－、能登川町埋蔵文化財調査報告書　第27集　斗西遺跡(２次調査)　－図版編１(土器・その他)－、能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集　斗西遺跡(２次調査)　－図版編２(木器)－、能登川町埋蔵文化財調査報告書　第29集　－西浦遺跡・宮の前遺跡・高岸遺跡－、能登川町埋蔵文化財調査報告書　第30集　－西ノ辻遺跡・佐野南遺跡・法堂寺遺跡－
近江町教育委員会	近江町文化財調査報告書第16集　西円寺遺跡
多賀町教育委員会	アケボノゾウ発掘記　－四手の丘陵に夢を掘る－、多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書　第７集　木曾遺跡　楢崎古墳群内遺跡、多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書　第８集　久徳遺跡
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅹ　泉南市文化財調査報告書第24集

藤井寺市教育委員会	新版 古市古墳群 －藤井寺市の遺跡ガイドブックNo. 6－
美原町教育委員会	美原町史 第4巻 史料編Ⅲ 近世・近現代
熊取町教育委員会	熊取町埋蔵文化財報告第19集 東円寺跡発掘調査概要・Ⅷ －東円寺跡92－1区の調査－、熊取町埋蔵文化財報告第20集 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・Ⅶ
兵庫県教育委員会	兵庫県生産遺跡調査報告 第2冊 製塩遺跡Ⅰ(津名郡)、兵庫県生産遺跡調査報告 第3冊 採石遺跡Ⅰ(高砂市)
三田市教育委員会	市制35周年記念講演会パンフレット 幻の三田城を探る
小野市教育委員会	播磨国大部荘 現況調査報告書Ⅲ
赤穂市教育委員会	有年原・田中遺跡、写真で見る赤穂の民俗
中町教育委員会	中町文化財報告3 森本・上島原遺跡、中町文化財報告4 安楽田・女夫岩遺跡、中町文化財報告5 思い出遺跡(略報)
橿原市教育委員会	橿原市埋蔵文化財発掘調査調査概報 平成4年度(田中廃寺・藤原宮跡)
御所市教育委員会	奈良県御所市 佐田遺跡第7次発掘調査報告 御所市文化財調査報告書 第15集、奈良県御所市 佐田遺跡範囲確認調査報告 平成4年度市内所在遺跡発掘調査報告 御所市文化財調査報告書 第16集
河合町教育委員会	1992年度埋蔵文化財調査報告 －河合町文化財調査報告 第8集－
倉吉市教育委員会	中尾遺跡発掘調査報告書、倉吉市内遺跡分布調査報告書Ⅶ、立道東古墳群発掘調査報告書、大日寺遺跡群発掘調査報告書、福本家ノ上古墓発掘調査報告書、山名氏館跡推定地発掘調査報告書、西焼ス古墳群・清水谷尻1号墳発掘調査報告書、猫山遺跡第4次発掘調査報告書
鹿野町教育委員会	鹿野町文化財報告書 第13集 寺内京南遺跡
東広島市教育委員会	埋蔵文化財調査報告書 1989、東広島市教育委員会文化財調査報告書第24集 福神3号遺跡発掘調査報告書、東広島市教育委員会文化財調査報告書第25集 埋蔵文化財調査報告、東広島市教育委員会文化財調査報告書第27集 椛坂城跡発掘調査報告書
徳島市教育委員会	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要2、徳島市埋蔵文化財発掘調査概要3、阿波国府跡第10次調査概要 －1991年度－
福岡県教育委員会	大宰府条坊跡 －福岡県文化財調査報告書 第107集－、久富市ノ玉遺跡 －福岡県文化財調査報告書 第108集－、高

江原口遺跡　－福岡県文化財調査報告書　第109集－、北山小学校遺跡　立花町文化財調査報告書　第５集、北山今小路遺跡Ⅰ　立花町文化財調査報告書　第６集、北の前遺跡Ⅱ　広川町文化財調査報告書　第10集、砥上上林遺跡　夜須町文化財調査報告書　第27集、砥上上林遺跡Ⅰ　福岡県文化財調査報告書　第103集、浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第６集　日永遺跡１、一般国道10号線　椎田道路関係埋蔵文化財調査報告　第１集　辻垣ヲサマル遺跡、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告　－25－、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告　－26－、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告　－27－、戸原堀ノ内遺跡　福岡県文化財調査報告書　第102集、小柳遺跡　福岡県文化財調査報告書　第104集、真奈板遺跡　福岡県文化財調査報告書　第105集、菟ギ坂古墳群　福岡県文化財調査報告書　第106集、下唐原居屋敷遺跡　福岡県文化財調査報告書　第110集、池ノ本遺跡Ⅱ　福岡県文化財調査報告書　第111集、辻の上遺跡　福岡県文化財調査報告書　第112集、ヲシガ浦南古墳　須恵町文化財調査報告書　第５集、牛ガ熊遺跡　須恵町文化財調査報告書　第６集、久原遺跡群Ⅰ　久山町文化財調査報告　第１集、一本杉１号古窯跡　金敷様裏３号古窯跡、面の上２号古墳　発掘調査報告書、穴ヶ葉山遺跡　大平村文化財調査報告書　第８集、道手牟田遺跡　三潴町文化財調査報告書　第２集、大宰府史跡 平成４年度発掘調査概報

久留米市教育委員会

筑後国府跡・国分寺跡　久留米市文化財調査報告書　第62集、安武地区遺跡群Ⅲ 久留米市文化財調査報告書 第63集、東部地区　埋蔵文化財調査報告書　第10集　久留米市文化財調査報告書　第66集、筑後国府跡　久留米市文化財調査報告書　第67集、道蔵遺跡　久留米市文化財調査報告書　第68集、筑後国府跡・国分寺跡　久留米市文化財調査報告書　第70集、大善寺北部地区遺跡群Ⅰ　久留米市文化財調査報告書第73集、三本松町遺跡　久留米市文化財調査報告書　第74集、古代官道・西海道跡　諏訪野町上牟田地区の調査　久留米市文化財調査報告書　第76集、汐入遺跡　久留米市文化財調査報告書　第78集、大善寺北部遺跡群Ⅱ　久留米市文化財調査報告書　第79集、筑後国府跡　久留米市文化財調査報告書第81集、山本町西屋敷古墳群

甘木市教育委員会	板屋遺跡 甘木市文化財調査報告書 第24集、三奈木大佛山遺跡 甘木市文化財調査報告書 第25集、福岡県指定文化財秋月城長屋門及び黒門保存修理工事報告書
大野城市教育委員会	大野城市の文化財 第25集、仲島遺跡ＸＩ 大野城市文化財調査報告書 第37集、牛頸胴ノ元古墳 大野城市文化財調査報告書 第38集、牛頸月ノ浦窯跡群 大野城市文化財調査報告書 第39集、牛頸小田浦遺跡群 大野城市文化財調査報告書 第40集、牛頸ハセムシ窯跡群Ⅲ 大野城市文化財調査報告書 第41集
太宰府市教育委員会	太宰府天満宮参道 太宰府の文化財第19集、太宰府・佐野地区遺跡群Ⅲ 尾崎遺跡第１次調査、太宰府・佐野地区遺跡群Ⅳ －宮ノ本遺跡第７－１次調査－
北野町教育委員会	定格・餅田遺跡 北野町文化財調査報告書 第１集
佐賀県教育委員会	佐賀県文化財調査報告書 第110集 朝日北遺跡 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(15)
佐賀市教育委員会	佐賀市文化財調査報告書第43集 増田遺跡群Ⅰ、佐賀市文化財調査報告書第44集 宿野遺跡、佐賀市文化財調査報告書第45集 篠木野遺跡（２・３・４・５区） 琵琶原遺跡（２・３区）、佐賀市文化財調査報告書第46集 観音遺跡、佐賀市文化財調査報告書第47集 千布二本松黒木遺跡、佐賀市文化財調査報告書第48集 大野原遺跡、佐賀市文化財調査報告書第49集 牟田寄遺跡 －Ｅ１・２・３区の調査－
人吉市教育委員会	荒毛遺跡 人吉市遺跡詳細分布調査報告書、矢黒城跡 旅館建設に伴う緊急発掘調査報告書、史跡 人吉城跡Ⅴ 「軍役蔵跡・角櫓跡・多門櫓跡・長塀跡」の発掘調査報告書、史跡 人吉城跡Ⅵ 西曲輪の地割確認発掘調査報告書、熊本県人吉市文化財調査報告書 中堂遺跡(上巻)、熊本県人吉市文化財調査報告書 中堂遺跡(下巻)、人吉市遺跡地図
高城町教育委員会	高城町文化財調査報告書 第１集 城ヶ尾遺跡、高城町文化財調査報告書 第２集 上原遺跡
鹿児島市教育委員会	鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(17) 谷山菊池城跡
北上市立博物館	北上市立博物館研究報告書 第８号、北上市立博物館研究報告書 第９号、北上市立博物館20年のあゆみ
栃木県立博物館	第45回企画展 選ぶ・割る・磨く －旧石器時代から古墳時代までの人と石のかかわり－

栃木県立なす風土記の丘資料館	第１回企画展図録 前方後方墳の世界 －前方後方墳の成立と展開－
大平町歴史民俗資料館	オトカ塚古墳周湟調査報告書 －栃木県下都賀郡大平町大字富田字愛宕－
埼玉県立さきたま資料館	調査研究報告 第６号
千葉市立加曽利貝塚博物館	貝塚博物館紀要 第20号
君津市立久留里城址資料館	君津市立久留里城址資料館年報(平成４年度)
出光美術館	出光美術館 館報第83号
府中市郷土の森博物館	南武蔵の古墳
山梨県立考古博物館	第11回特別展図録 山梨の経塚
氷見市立博物館	平成４年度 氷見市立博物館年報－第11号－、氷見市近世史料集成 第13冊 宮永家文書 その六、氷見市近世史料集成 第14冊 宮永家文書 その七、特別展「身近に遺跡が・・・」－近年の調査成果と大境洞窟・朝日貝塚出土資料から－
石川県立歴史博物館	祈り・忌み・祝い －加賀・能登の人生儀礼－
敦賀市立博物館	敦賀市立歴史民俗資料館 紀要 第８号
岐阜市歴史博物館	特別展 「はにわ物語」図録
静岡市立登呂博物館	静岡市立登呂博物館報(第２号)、静岡市立登呂博物館報(第３号)、登呂遺跡発見50周年記念特別展 めし・むすび・もち・すしのルーツ －コメの食文化にさぐる「かたち」と「こころ」－、特別展 安倍川水紀行 －水は山から生みだされる－
名古屋市博物館	名古屋市博物館年報 No.16(平成４年度)
斎宮歴史博物館	斎宮歴史博物館研究紀要 二、特別展 巫女の文化 －斎宮をめぐる文化－
大阪城天守閣	特別展 城下町大坂 －地中より今甦る激動の歴史－
大阪府立弥生文化博物館	大阪府立弥生文化博物館図録７ －平成５年度秋季特別展－ 弥生人の見た楽浪文化
吹田市立博物館	平成５年度企画展 疫神信仰にみる祈りと願い
兵庫県立博物館	館報 1992
神戸市立博物館	神戸市立博物館 研究紀要 第７号、神戸市立博物館 研究紀要 第８号、神戸市立博物館年報 No. 7 －平成元年度－、神戸市立博物館年報 No. 8 －平成２年度－、神戸市立博物館館蔵品目録 地図の部７ 新収外国製古地図、神戸市立博物館館蔵品目録 地図の部８ 世界図・日本図・江戸図・

	都市図・諸国図等、神戸市立博物館館蔵品目録 考古・歴史の部７、神戸市立博物館館蔵品目録 考古・歴史の部８、神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部７ 地図・文書Ⅰ、神戸市立博物館館蔵品目録 美術の部８ 近代絵画
西宮市立郷土資料館	西宮市立郷土資料館報 平成４年度(1992年度)、研究報告第２集、西宮市立郷土資料館第８回特別展 展示案内図録「銅銭の考古学」、兵庫県西宮市所在絵馬調査報告書 西宮市文化財資料第38号
明石市立文化博物館	明石市埋蔵文化財調査概報 －平成３年度－
芦屋市立美術博物館	特別展 古墳と伝承 －移りゆく"塚"へのまなざし－
紀伊風土記の丘管理事務所	特別展 紀伊の古代寺院 －出土瓦を中心として－
岩出町民俗資料館	平成４年度 岩出町内遺跡発掘調査概要
福山市立福山城博物館	姫谷 －17世紀後半の色絵磁器の系譜－
福岡市博物館	平成２年度収集 収蔵品目録８
北九州市立考古博物館	北九州市立考古博物館年報 －平成４年度－、開館10周年記念展 『終末期古墳の世界』－高松塚とその時代－
九州歴史資料館	九州歴史資料館年報(平成４年度)、九州歴史資料館 研究論集 18
東北学院大学東北文化研究所	東北学院大学 東北文化研究所紀要 第25号
日本大学史学会	史叢 第50号
早稲田大学考古学会	古代 第96号
明治大学考古学博物館	明治大学考古学博物館 館報No. 8
大手前女子大学文学部	東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究
神戸女子大学史学会	神女大史学 第10号
天理大学	シンポジウム 東アジアの文明の盛衰と環境変動
天理大学附属天理参考館	天理参考館報 第６号
島根大学	山陰地域研究 第９号
岡山理科大学図書館	岡山理科大学 蒜山研究所研究報告 第18号
広島大学	広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報ＸⅠ
山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡調査研究年報ＸⅠ
九州大学埋蔵文化財調査室	九州大学埋蔵文化財調査報告 第一冊 －筑紫地方の遺跡群－、九州大学埋蔵文化財調査報告 第二冊 －筑紫地方の遺跡群－
九州大学文学部考古学研究室	鷹島海底における元冠関係遺跡の調査・研究・保存方法に関する基礎的研究、番塚古墳 －福岡県京都郡苅田町所在

	前方後円墳の発掘調査－
胆沢町文化創造センター	埋蔵文化財報告書第22集　尼坂遺跡第２次緊急調査報告書、胆沢町文化財調査報告書第13集 胆沢古文書資料集第２集
宮城県多賀城跡調査研究所	宮城県多賀城跡調査研究所年報1991　多賀城跡、多賀城関連遺跡発掘調査報告書第17冊 東山遺跡Ⅵ
山武考古学研究所	新潟県聖籠町　二本松東山遺跡発掘調査報告書、日立市文化財調査報告第32集　志々前遺跡発掘調査報告書、日立市文化財調査報告第33集　八幡平遺跡発掘調査報告書、上之手石塚Ⅲ遺跡　－倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、蟹沢Ⅱ遺跡　－工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、蟹沢Ⅲ遺跡　－工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、蟹沢Ⅳ遺跡　－倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、古海松塚古墳群　平成３・４年度発掘調査概報、昭和町Ⅰ遺跡　－浅間Ｂ軽石埋没水田址の調査－、山名戸矢遺跡　－山名住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、萩原団地遺跡
国立国会図書館	日本全国書誌 1993年 第31号(通号1925号)
(株)世界文化社	ビッグマン・スペシャル　歴史人物シリーズ③　豊臣秀吉その傑出した奇略の研究
(株)名著出版	歴史手帖 第21巻9～11号
特殊法人 日本芸術文化振興会　第二国立劇場(仮称)準備室	松平出羽守抱屋敷　出雲国松江藩抱屋敷発掘調査報告　初台遺跡
玉川文化財研究所	神奈川県高座郡寒川町 岡田遺跡発掘調査報告書
鎌倉考古学研究所	神奈川県鎌倉市　台山藤源治遺跡　－第３次調査報告－、史跡若宮大路遺跡発掘調査報告書Ⅶ、第３回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨
(財)古代學協會	古代文化 第45巻 第８～10号
史迹美術同攷会	史迹と美術 第63輯の７(第637号)・８(第638号)
和泉丘陵内遺跡調査会	和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書Ⅴ　万町北遺跡Ⅰ　本文編、和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書Ⅴ　万町北遺跡Ⅰ　写真図版編、和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書Ⅲ　和泉丘陵の古墳　－槙尾川中流域周辺の古墳群の調査－＜本文＞、和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書Ⅲ　和泉丘陵の古墳　－槙尾川中流域周辺の古墳群の調査－＜遺物観察表＞＜単色図版＞
大阪・郵政考古学会	郵政考古紀要　平井尚志先生古稀記念考古学論攷第Ⅰ集、

	郵政考古紀要 平井尚志先生古稀記念考古学論攷第Ⅱ集
毎日新聞社	特別展覧会 倭国－邪馬台国と大和王権－
高山歴史学研究所	小部北ノ谷遺跡 高山歴史学研究所文化財調査報告書 第3冊
六甲山麓遺跡調査会	豊中市 新免古墳群第3号墳 －新免遺跡第38次調査－
朝鮮学会	朝鮮学報 第148輯
(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団	「ユネスコ・シルクロード海洋ルート調査」 奈良国際シンポジウム'91 報告書、UNESCO Maritime Route of Silk Roads Nara Symposium '91 REPORT
(財)由良大和古代文化研究協会	朝鮮原始・古代住居址と日本への影響 －朝鮮原始・古代住居址の主要調査報告－、大和宇陀地域における古墳の研究
田川文化センター	長谷池遺跡群 田川市文化財調査報告書 第8集、田川市内遺跡等分布地図
博物館等建設推進九州会議	文明のクロスロード Museum Kyusyu 季刊 第12巻2号 通巻44号
朝地市公民館	朝地地区遺跡群発掘調査概報 Ⅷ
嶺南大學校博物館	嶺南大學校博物館學術調査報告 第10冊 慶山 北四里 古墳群、嶺南大學校博物館學術調査報告 第15冊 京釜高速鉄道大邱・慶北圏文化財地表調査報告書、嶺南大學校博物館學術調査報告 第16冊 釜山～大邱間高速道路 大邱・慶北圏文化遺跡地表調査報告書
陝西省文物事業管理局	法門寺地宮珍宝
(財)長岡京市埋蔵文化財センター	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成3年度
京都府教育委員会	重要文化財 仁和寺鐘楼・経蔵・遼廓亭修理工事報告書、京都府 国指定文化財総合目録、京都の文化財 第11集
宇治市教育委員会	第1回 京都府埋蔵文化財研究会資料
城陽市教育委員会	正道官衙遺跡 城陽市埋蔵文化財調査報告書 第24集
福知山市教育委員会	福知山市文化財調査報告書 第21集、下山古墳群Ⅱ 福知山市文化財調査報告書 第22集
加悦町教育委員会	第1回加悦町古墳シンポジウム 蛭子山古墳の時代 －日本海側における巨大古墳の成立－
木津町教育委員会	木津町埋蔵文化財調査報告書 第9集、木津町埋蔵文化財調査報告書 第10集 白口遺跡
京都府立総合資料館	資料館紀要 第21号、京都府資料目録追録 No. 9

京都府立丹後郷土資料館	特別陳列図録32　古文書は語る・中世丹後の歴史、農民のこころとかたち　－丹後の農具流通変遷誌－(特別陳列図録31)、特別展図録24 石の考古学
京都府立山城郷土資料館	企画展資料『発掘成果速報～平成４年度の調査から～』、特別展展示図録13 南山城の寺社縁起
京都市歴史資料館	建都1200年にむけて第４回特別展　建都1100年の京都　－近代化へのうねり－
向日市文化資料館	第９回特別展示図録　向日里人物志　－幕末京郊の文化サロン－
宇治市歴史資料館	大名と茶師　－三入宛の書状を中心に－
京都文化博物館	京都文化博物館研究紀要　朱雀　第５集、創建1000年記念壬生寺展　－大念仏狂言と地蔵信仰の寺－、京都文化博物館開館３周年記念特別展　光源氏と平安貴族　－栄華の日の虚・実
濱田先生著作集刊行委員會	濱田耕作著作集 第六巻 西方古典文化とその遺跡
都出比呂志	RECENT ARCHAEOLOGCAL DISCOVERIES IN JAPAN
樋口隆康	特別展　中国王朝の誕生　黄土に咲いた歴史とロマン－夏・殷・周時代の遺宝
森島康雄	摂河泉文化資料 第42・43号

編集後記

今年もようやく終わりに近づきましたが、情報50号が完成しましたのでお届けします。

本号は、本年度の調査の中で、特に調査成果のあがった現地報告を中心にまとめてみました。さらに、職員からの投稿を１本掲載できただけでなく、資料紹介も載せることができました。資料紹介などは、できるだけ掲載していきたいと存じますので、今後もお楽しみください。

なお、本号もMacintosh用のソフトウエアのQuarkXpress 3.1Jを用いて編集しました。

（編集担当＝土橋　誠）

京都府埋蔵文化財情報 第50号

平成５年12月27日

発行　（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617　向日市寺戸町南垣内40番の３
Tel（075）933-3877（代）

印刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
Tel（075）441-3155（代）